ISSN 1346-7328 国総研資料 第322号 平成 1 8 年 3 月

## 国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of National Institute for Land and Infrastructure Management

No.322

March 2006

# 地下水モデルに関する研究

## 報告書

河川研究部

Research on Groundwater Model

Report

River Department

国土交通省 国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management Ministry of Land, Infrastructure and Transport, Japan

#### 国土技術政策総合研究所資料

第 322号 2006年 3月

## 地下水モデルに関する研究

### 報告書

安田	成夫*
川﨑	将生**
村瀬	勝彦***
冨澤	洋介****
天方	匡純****

概 要:

本資料は平成17年度までに行われた地下水モデルに関する研究の内容を取りまとめ たものである。

キーワード: 地下水、地下水管理、データベース、水循環

*	:国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部ダム研究室長
* *	:国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部ダム研究室 主任研究官
* * *	: 国土交通省 国土技術政策総合研究所 企画部企画課長
	(前 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部ダム研究室 主任研究官)
* * * *	:国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部ダム研究室 研究官
* * * * *	:国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部ダム研究室 交流研究員

Technical Note of NILIM No. 322 March 2006

## Research on Groundwater Model

## Report

Nario Yasuda\* Masaki Kawasaki\*\* Masahiko Murase\*\*\* Yosuke Tomizawa\*\*\*\* Masazumi Amakata\*\*\*\*

Synopsis

This report made up contents of research on the groundwater model.

Key Words : groundwater, groundwater management, data base, water circulation

*	:	Head, Water Management and Dam Division, River Department, NILIM
**	:	Senior Researcher, Water Management and Dam Division, River Department, NILIM
***	:	Chief, Planning Division, Planning and Research Administration Department, NILIM
****	:	Researcher, Water Management and Dam Division, River Department, NILIM
****	:	Guest Research Engineer, Water Management and Dam Division, River Department, NILIM

第1編 地下水管理モデルの構築

1. はじ	がめに	. 1
2. 地下	「水管理モデルの基本構造	. 2
2.1.	データベース機能と解析機能の結合	. 2
3. デー	- タベース構造検討・作成	. 3
3.1.	データベース構造検討	. 3
3.2.	データベースの作成	. 8
4. 地上	:部水収支モデル	16
4.1.	地上部水収支モデルの選定	16
4.2.	SHERモデルの概要	19
5. 地下	「水解析モデル	26
5.1.	地下水解析モデルの選定	26
5.2.	広域地下水解析モデルの理論	26
5.2.	1. 帯水層内の流動特性	28
5.2.	2. 支配方程式	30
5.2.	3. 境界条件および初期条件	34
5.2.	4. 準三次元への近似	35
5.3.	広域地下水モデルの有限要素法による解法	39
5.3.	1. 定常モデルによる有限要素解法	40
5.3.	2. 非定常モデルによる有限要素解法	44
6. 地上	:部水収支モデルと地下水解析モデルの結合	51
第2編	実流域への適用	
7. 両贷	『平野での地下水解析	53
7.1.	資料収集	53
7.2.	定性的把握	56
7.3.	モデル作成	57
7.4.	モデル精度検証	70
8. 番匠	E川流域での地下水解析	77
8.1.	資料収集	77
8.2.	データベース化1	12
8.3.	定性的把握1	14
8.4.	モデル作成1	21
8.5.	モデル精度検証1	29
8.6.	モデルを用いた番匠川流況に関する考察1	35
9. 地下	「水管理モデルの課題	40

#### 第1編 地下水管理モデルの構築

1. はじめに

世界規模で進む地球温暖化による水資源賦存量の変化や人口減少に伴う水需要供給構造の変化等, 今後,わが国が抱える水資源上の課題は多様である.このようななか,水資源の有効利用のため,ま た,水資源有効利用の際に必要となる合意形成の円滑な推進支援のため,水資源を解析対象としたツ ール開発が不可欠である.そして,水資源の有効利用の試みにあたっては,表流水だけでなく,地下 水に関しても定量的把握を行い,全流域,あるいは,サブ流域を対象とした水収支・水循環の流れを 捉えることが重要である.

流水の定量的な把握にあたって,最も重要なものは水文観測である.しかし,河川,地下水に関わらず,定点の水文観測のみで流域・水系全体の流水動向を把握することは困難である.また,3次元 的な広がりを持つ地下水を一元的に管理する者が不在であること等に起因して,地下水観測データの 絶対的な不足が流水動向把握・解析時の大きな問題となることが多い.

本研究は、「円滑な地下水管理を支援するツール開発」及び「地下水流を精度良く再現できるモデ ル開発」を目的とし、系統的な流水動向の把握や不十分な観測体制の支援を目的とした地下水管理モ デルの開発を目指している.

本研究で開発した地下水管理モデルは, データベースモデル, 地下水解析モデル, 地上部水 収支モデルからなり, と で対象地域の水循環系を解析する.地下水解析モデルについては,岡山 大学で開発された Ground Water Analysis Program1)(以下,GWAP)を利用している.GWAP は,2次 元鉛直積分格子を有限要素法で解くプログラムであり,3次元モデルに比較して解析精度に限界はあ るものの,「モデル構築の容易さ」と「計算速度の速さ」の観点から,利便性向上の面で発展の可能性 があると考えた.また,地上部水収支モデルについては,ダムによる洪水調節・利水補給,河川取水・ 還元等の水収支が再現可能なモデルとした.更に,河川と地下水の相互通水機能等のスケールの小さ な水循環機能を加え,地下水解析精度の向上に着目した.

本書では,地下水管理モデルの根幹となるデータベース機能に関して記述するとともに,水循環解 析機能を担う地上部水収支モデルおよび地下水解析モデルについて述べ,最後に適用流域での解析精 度について言及する.

- 2. 地下水管理モデルの基本構造
- 2.1. データベース機能と解析機能の結合

図 2-1 は,地下水管理モデルの基本構造を示したものである.地下水解析モデルと地上部水収支モ デルのパラメタ設定に必要なデータ及び両モデルの計算に必要なデータはデータベースから抽出され る.このデータに基づき,地上と地下が相互に関連した水収支計算により当該地点の水位・流量を算 出する.

具体的には,地上部水収支計算は,ダム諸元,取水量,蒸発散量等に係るパラメタを設定し,地下 水解析では透水係数,貯留係数,層厚等をパラメタとして設定する.その後,雨量,河川水位・流量, 地下水位の水文緒元を交えて水循環計算を行う.

降雨から地下水浸透までの地上部水収支過程は,日単位のスカラー計算である.このスカラー計算 は,各メッシュ要素単位で水収支計算を行い,連続式のみを満たす.この計算から地下水浸透量を算 出し,地下水解析モデルを構成するメッシュの各節点に浸透量を均等配分することで地上部水収支計 算と地下水計算を連結した.その後,連続式と運動方程式からなる GWAP の地下水計算により地下水の 水位,流動量計算が行われる.



図 2-1 データベースと解析機能の結合

3. データベース構造検討・作成

現在まで地下空間を一元的に管理する者が不在であったことから,地下水動向を把握するための水 文観測(地下水位観測等)が十分に行われてきたとは言い難い.このため,地下水管理に必要となる データの種類等に関する知見は一般的には形式知として蓄積されていない.

そこで,本研究では,地下水管理に必要なデータの種類を明示し,ユーザーフレンドリーにデータ 蓄積が可能となる環境を整え,継続的な地下水管理データ集積を支援することを目的にデータベース の開発を行った.

データベースは,複数の解析プログラムへの流用を想定した汎用的な構造とする.汎用性の確保に あたって,データベースの種類,データのフォーマット,結果の表示方法の3面から検討する.

3.1. データベース構造検討

1) データベース

データベースとしては, EXCEL, ACCESS, SQL, ORACLE などがある.この中では,今回扱うデータが あまり多くないこと,扱いやすいことから,EXCELが適当と判断した.EXCELは,データ処理部分と計 算部分(VBA)を併せ持つことから,データと解析プログラムの一元管理が可能であるという特徴を持つ.

データベースは,データ項目毎に Excel のファイルを持つ構成とした(図 3-1,表 3-1,表 3-2). 具体的には表 3-1 に示すデータがデータベースに蓄積される.地質,河道断面及び堰等の一般的に 資料の継続的蓄積がないデータについては,単年度分のみを収納し,雨量,河川流量,河川取水量, 地下水揚水量等の継続的な観測データについては,観測地点ごとに毎年のデータを収納している.デ ータ選択の際には,地点ごとに各年のデータ参照が可能である.

また,このデータベースのデータを基に地下水解析モデル変数の一次設定の自動化を可能とし,キャリプレーション作業の効率化を図っている.



図 3-1 データベースの構成

項目	小項目	両筑平野モデル1			
気象	雨量	江川ダム , 寺内ダム地点 , 甘木(アメダス)			

表 3-1 データベースに登録されているデータ種別一覧(両筑平野モデル)

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 小石原川・佐田川流域水収支データベース・モデルver.4 システム使用説明書;国総研ダム研究室より

	気温	甘木(アメダス)
ダム諸量	流入量,放流量,貯水位	江川ダム,寺内ダム
河川流量	河川流量	金丸橋,栄田橋,筑後川
	都市用水	甘木市,福岡市,下流取水(左岸,右岸取水)
河川 取水量	灌漑用水	頭取工取水量,旧堰取水量
	導水量	寺内導水路
+#- <b>T</b> ->k	揚水量	灌漑用水機場,甘木市(都市的利用)
地下小	地下水位	消防用井戸,自動観測井戸
地質柱状図		福岡県甘木農林事務所データ
土地利用		全域
水利権量		江川・寺内ダム総合運用要領(案)(水資源機構)
維持流量		同上
ダム H-V 式		水資源開発施設等管理年報(水資源機構)
河川 H-Q 式		筑後川河川事務所資料
圃場面積		両筑土地改良区資料
井戸諸元		県営揚水機場一覧表(両筑土地改良区)
河道諸元		小石原川,佐田川

表 3-2 元データファイル群(両筑平野モデル)

	項目	ファイル名
		江川ダム貯水位.xls
		江川ダム放流量.xls
لتا.		江川ダム流入量.xls
94		寺内ダム貯水位.xls
		寺内ダム放流量.xls
		寺内ダム流入量.xls
		江川ダム.xls
雨量		寺内ダム.xls
		鹿沼(アメダス).xls
気温		鹿沼(アメダス).xls
横断	佐田川 , 小石原川	横断.xls
取水量	井堰	旧堰.xls

		甘木市.xls		
		佐賀広域.xls		
	教士田よ	佐賀東部水道企業団.xls		
	御巾用小	福岡県南広域水道企業団.xls		
		福岡市.xls		
		福岡地区広域水道企業団.xls		
		下淵.xls		
		甘木.xls		
		寺内.xls		
	農業用水	女男石.xls		
		小田.xls		
		上屋敷.xls		
		本郷.xls		
		恵蘇ノ宿.xls		
		荒瀬.xls		
水位		瀬ノ下.xls		
		片の瀬.xls		
		端間.xls		
		-21.csv , -116.xls		
		-103.xls , -22.xls		
地下水位	灌溉用井戸	-108.xls, -134.xls		
		L-9.xls , R-14.xls		
		R-15.xls , R-3.xls		
地質		ボーリング.xls		
		S51.jpg		
		S62.jpg		
工地利用		H3.jpg		
		H9.jpg		
揚水量		揚水量.xls		
		栄田橋.xls		
		金丸橋.xls		
`* <b>=</b>		恵蘇ノ宿.xls		
/ <b>派</b> 重		荒瀬.xls		
		瀬ノ下.xls		
		片の瀬.xls		
導水量		寺内導水量.xls		

2) データフォーマット

データを EXCEL に整理した場合の長所と短所は次のように考えられる.

【長所】

・データのみで(データベースがなくても),必要な情報を得ることができる

・データの追加・修正が容易

・EXCEL から呼ぶのが簡単

【短所】

・ファイル容量が大きくなる

・他のアプリケーションから呼び出すのが難しい

今回対象とするデータは基本的に日データであり,データベースとして EXCEL を使用することを考えれば上記の短所がなくなることから,データは EXCEL で整理する.その場合の各データのフォーマットは以下のとおりとした.

(1)時系列データ

時系列データ(日データ,時間データ)のフォーマットは,既存のデータとの互換性を考え図 3-2の とおりとした.Excel のシート1枚に1年分のデータを保持する.また,欠測データはセルを空白とした.





(2)地点データ

データの汎用性・互換性を考慮し,位置情報として緯度経度と XY 座標(平面直角座標または UTM 座標)を付加する.

ID	経度	緯度	X座標	Y座標	地点名	地点情報1	地点情報2	地点情報3	

図 3-3 地点データのフォーマット

3) 結果の表示

解析結果は地下水位時系列,河川流量時系列,地下水位コンター及び水収支図で表示できることとした.このうち,時系列(地下水,河川流量)及び水収支図については Excel 上で行い,地下水コンター図については GrADS 形式で出力することとした.

地下水位分布のような平面的図化は Excel 上では難しいため,別途図化ソフトが必要である.例え ば,GrADS は,米国 COLA (Center for Ocean-Land- Atmosphere Studies)が開発した,地球科学関 連のデータ(気象,海洋など)を処理・図化するためのフリーのソフトであり,4次元(x,y,z,t)格子点 データの図化が可能である.計算結果はこの GrADS フォーマットでエキスポートすることにより,わ かりやすい結果の表示が期待できる.



図 3-4 GrADSの概要

3.2. データベースの作成

以下の点に留意してデータベースの作成を行った.

Excel ベースの統一したインターフェースへ変更した.これにより使用するパソコンの画面サイズなどの制約はなくなった.

Excel に詳しいユーザとそうでないユーザへの配慮を行った.シート上に配置したボタンを押す だけでシート間(データ表示画面間)を移動でき,Excel の操作に詳しいユーザは Excel 本来の 操作により必要な画面やデータへたどり着ける.

Excel のブック(ファイル)一つに GWAP を除く全てのデータ,解析プログラムを凝集させた.これにより,解析事例の保存などの保守性が向上した.但し,元データ(観測データなどのデータベース)へのアクセスには,所定フォルダーが必要となる.

	メイン画面
Operation         Division           ② biolo det allo det station	<ul> <li>データベース検</li> </ul>
西京決域データベース・モデル	あるいはモデル計算のシ
S STATISTICS STATES STATES STATES	トへの導入画面である .
	• Excel のワークミ
73. 14. 18. 19.	ト上にボタンを配置した
10 19 20 21 22	シンプルな画面構成と
28. 28. 28. 20. 27. 27.	た.
287 300 371 382 383 384	• これにより , 使月
第 第 27 第 第 第 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	るパソコンの画面サイス
100 11 12 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	どの制約を受けなくな
	た.



計算条件設定(基本パラ メータ) 水循環系解析のパ • AND AND AND AND THE THE SAME AND AND THE SAME AREA/AREABUSA, MARCHINA 二級 电动压 ラメータ設定画面である. 0.9% -. 基本条件設定·計算開始画面 31 33 14 15 14 10 14 14 解析の際に頻繁に • PRMI REATORNAS 1 DIRAN PATHO 2 - PATHO 22 - 1/5/-0 11 282298510 変更されるパラメータを中 1.4800 Pase 3 U. AWINE 心に,この画面で設定でき る. 全てのパラメータ • を横並びで変更可能とする のではなく,主要なものを この画面で表示した. その他のパラメー \_\_\_\_\_. (計算結果1/計算結果2/計算結果3/計算|+| タヘは,ボタンを押すこと により,それらを変更する 画面へ移動できる. 944年 ##2 ANN ALE ##2 F-#2 F-#2 F-#79 -4478 2月19 年代 11日前の「「「「東王-11日前通100 -10」 HITSH -11・1・1 1日日日日から2月19日」 1949年 月代記(中) 計算条件設定(詳細設定) - - 水循環系解析のパ 144 1.00 詳細条件設定画面 ########### ## THE FEEL ACCENT AN
 \* 東京和学校によび美生業 (1) 新学 (1) 新学 (1) 基本学 (1) 新学 (1) 基本学 (1) \pm ( ラメータの詳細設定を行う 画面である. 的利息分享 用留显分享 11 + ##1.8493(3) (##) () #412.53 () #22.53 0.101 土地利用毎の窪地 5 24724 100 貯留能など,比較的固定的 2月12日時間的2月時間的月回時間間間的4444 な扱いがなされるパラメー タを変更する. 42: \*\*\*\*\*\*/KOLANA ARABANA HEADED (HEADED / NEEDE / HEADE / H ા માં

<ul> <li>細設定)</li> <li>流域モデルの (FEM 要素相当)毎に する諸元の詳細設定を 画面である.</li> <li>流域モデルを したあとではほとんど の必要がないが,要素 の詳細な設定が可能 る.</li> <li>データペース 存されているデータの を表示する画面である。</li> <li>データベース 索結果として表示され 面の一種である.</li> </ul>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
<ul> <li>流域モデルの (FEM 要素相当)毎に する諸元の詳細設定を 画面である.</li> <li>流域モデルを したあとではほとんど の必要がないが、要素 の詳細な設定が可能 る.</li> </ul>		細設定)
<ul> <li>(FEM 要素相当)毎にする諸元の詳細設定を画面である.</li> <li>流域モデルをしたあとではほとんどの必要がないが、要素の詳細な設定が可能る.</li> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース存されているデータのを表示する画面である。</li> <li>データベース存されているデータのを表示する画面である。</li> <li>データベース存されているデータのを表示する画面である。</li> </ul>		• 流域モデルの
する諸元の詳細設定を 画面である. ・ 流域モデルを したあとではほとんど の必要がないが、要素 の詳細な設定が可能 る. データベース 存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 森結果として表示され 面の一種である.		(FEM 要素相当)毎に
画面である. ・ 流域モデルをしたあとではほとんどの必要がないが、要素の詳細な設定が可能る. ・ データ保存期間の表 ・ データベース存されているデータのを表示する画面である。 ・ データベース 存されているデータのた表示する画面である。 ・ データベース 方されているデータのた表示する画面である。 ・ データベース 方されているデータのた表示する画面である。 ・ データベース 方されているデータのた表示する画面である。 ・ データベース 方されているデータのた表示する画面である。 ・ データベース 方法にて表示され 面の一種である.		する諸元の詳細設定を
<ul> <li>流域モデルをしたあとではほとんどの必要がないが,要素の詳細な設定が可能る。</li> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース存されているデータのを表示する画面である。</li> <li>データベース索結果として表示され面の一種である.</li> </ul>	1       1	画面である .
したあとではほとんど の必要がないが,要素 の詳細な設定が可能 る. データ保存期間の表 ・ データベース 存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である.	14         4         400         400 <sup>2</sup>	<ul> <li>流域モデルを</li> </ul>
の必要がないが、要素の詳細な設定が可能る.         データベース存されているデータのを表示する画面である。         データベース存されているデータのたま、する画面である。         データベースた存されているデータのたま、する画面である。         データベースた存されているデータのたま、する画面である。         データベースた存されているデータのたま、する画面である。         データベースたん。         データベースたん。         データベースたん。         アータベースたん。         アータベームたん。         アータベーム         アータベーム         アータベーム         アータベーム         アータベーム         アータベーム         アータの         アータの         アータの         アータの         アータの         アータの         アータの         アータの         アータの	D         D <thd< th=""> <thd< th=""> <thd< th=""> <thd< th=""></thd<></thd<></thd<></thd<>	したあとではほとんど
Co詳細な設定が可能     Co詳細な設定が可能     Co     C	0         0	の必要がないが , 要素
	4         4         4         4         4         5         5         5         7         5         7         5         7         5         7 <th7< th=""> <th7< th=""> <th7< th=""> <th7< th=""></th7<></th7<></th7<></th7<>	の詳細な設定が可能
データ保存期間の表 <ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>データベース</li> <li>索結果として表示され</li> <li>面の一種である.</li> </ul>	11 10 170 - 44 (ant-cone) 20 40 (ant-cone) 20 40 (ant-cone) 40 (ant-co	z
<ul> <li>・ データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>・ データベース</li> <li>索結果として表示され</li> <li>面の一種である.</li> </ul>		S.
存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である.		 データ保存期間の表:
を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である.	Owner         Size         <	 データ保存期間の表: ● データベース
<ul> <li>・ データベース</li> <li>索結果として表示され</li> <li>面の一種である.</li> </ul>	Comparison	<ul> <li>データ保存期間の表示</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> </ul>
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Note:         1 <td><ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> </ul></td>	<ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> </ul>
家結果として表示され 面の一種である.	● 100000         ● 100000         ● 1000000         ● 1000000000000000000000000000000000000	<ul> <li>データ保存期間の表示</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>データベース</li> </ul>
面の一種である.	Note         Note <th< td=""><td><ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>データベース</li> </ul></td></th<>	<ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>データベース</li> </ul>
	Normal State of	<ul> <li>データ保存期間の表</li> <li>データベース</li> <li>存されているデータの</li> <li>を表示する画面である</li> <li>データベース</li> <li>索結果として表示され</li> </ul>
		データ保存期間の表 ・ データベース 存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である.
		データ保存期間の表 ・ データベース 存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である .
25. 25. 27. 27. 28. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29		データ保存期間の表 ・ データベース 存されているデータの を表示する画面である ・ データベース 索結果として表示され 面の一種である .







土地利用データの更新

土地利用データは,約100mごとの点データであり,計算メッシュに対応させるには,1)点データ 基準グリッド,2)基準グリッド 計算メッシュへの変換を行う.この変換は,VBA で行った場合,相当な時間(約3時間以上)かかることから,すでに土地利用データがある年は,変換されたデータをそのまま用いることとする.



1)点 基準グリッド

2)基準グリッド 計算メッシュ

図 3-5 土地利用データと計算メッシュの対応

- 4. 地上部水収支モデル
- 4.1. 地上部水収支モデルの選定

地上部水収支モデルと地下水解析モデルの結合により水循環系の計算が行われるが,水循環系モデルの各要素との対応は**図 4-1**の通りである.



図 4-1 水循環系における各要素

図 4-1 から分かるように,水循環系の観点から見れば,地表水と地下水は相互に関連するものであるため,両者を連携したモデルを作成する必要がある.図 4-2 には,すでに構築されている代表的な4つの水循環系モデル(地表水と地下水が連携したモデル)を示した.それぞれのモデルは,表 4-1 に示した各対策(目的)に応じて使い分けられる.





図 4-2 代表的なモデルの概念図(左上:年間水収支法,右上:SMPT,左下:SHER,右下:PDE) ・年間水収支法:水循環系経路を流れる水量を年間単位で把握する手法

・SMPT (Soil Moisture Parameter Tank Model): 表層土壌をタンクモデルで表現. 流域は水文学的 に均一な特性を持つ地域ごとに分割し, それぞれにモデルを一つずつ対応させ, 流域全体を表現 ・SHER (Similar Hydrologic Element Response Model): SMPT において, 表層土壌部分に不飽和浸 透計算を組み込んだ手法

・PDE (Physically based Distributed model for Ebigawa-river): 流域をメッシュ分割し, 各メッ シュにおいて鉛直方向の水分移動を計算し, それを地表面, 表層土壌, 地下水のそれぞれに平面的に 接続し, 流域全体を3次元的に連続したものとして表現した手法

対策		年間	SMPT	SHER	PDF
課題 (評価指標)	対策分類	水収支法	モデル	モデル	モデル
	河川水の利用				
	下水処理水の活用				
平常時の流量の確保	地下水の利用				
(日流量)	貯留水の利用				
	雨水浸透				
	自然地の保全				
	河川の整備				
洪水制御	下水道の整備				
(ピーク流量)	雨水貯留				
	雨水浸透				

表 4-1 対策と対応する解析モデル

水資源の保全と開発 (年間水量)	雨水 , 再生水の利用		
生態系の保全と復元 (日流量)	-		
汚濁制御	浄化用水の導入		
	下水道の整備		
	合流式下水道の越流対策		
	河川 , 池沼における直接浄化		
( )	汚濁負荷流入の分離		
	下水道未普及地域での汚水処理		
熱環境の改善等			
(蒸発散量)	-		

印は対応する事を示す. 印は限定的に対応することを示す.

出典:「都市域における水循環系の定量化手法」 都市小流域における雨水浸透,流出機構の定量的解 明研究会 平成 12 年

4つのモデルの中では, PDE モデルの精度が1番高く,多くの対策評価が可能である.この PDE モデルのようにモデル化を行う場合は,地下水モデルに大気格子モデルを組み込む必要がある(図4-3 左).ただし,目的や開発コスト,計算時間等を考慮した場合,地下水モデルにSHER モデルの地表(+ 表層土壌)部分を組み込んだモデルも考えられる(図4-3右).両モデル化の比較を表4-2に示す. 本研究の目的が,洪水追跡計算ではなく,水収支の算定であることを考えれば,SHER モデル+地下水 モデルでも十分対応可能である.

以上のことから,地上部水収支モデルとして SHER モデルを選定する.



図 4-3 地表流モデルと地下水モデルの組み合わせ (左:大気格子モデル+地下水モデル,右:SHER モデル+地下水モデル)

		大気格子 + 地下水モデル	SHER + 地下水モデル
	年間水収支		
評価対象	日単位の河川流量		
(用途)	洪水追跡計算		-
	氾濫解析		-
計算精度		高い	比較的高い
計算の安定性		中	高い
計算時間		長い	短い
開発コスト		非常に大きい	小さい

表 4-2 地下水モデルと地表流モデルの組み合わせ比較

#### 4.2. SHER モデルの概要

以下に SHER モデルにおける地表面 + 表層土壌部分のモデル化の考え方を記す. SHER モデルでは,地下水位と河川水位の関係を現実に近いものとするため,また,部分流出寄与域 (図 4-4)の考え方にならい,低平地で地下水深度が浅い地域では流出応答が異なることを再現する ために流域分割を行う.分割は河川近傍とその外周部分とに分割することを基本的な方針とする.



#### 図 4-4 涵養域と流出寄与域

それぞれの流域(ブロック)においては,地表面を表 4-3に示した4種類に分類する.それぞれの地表面からの水の流れは,図 4-4に示すようである.

地表面の分類	概要	対応するモデル	
不浸透域	屋根や道路	不浸透域モデル	
- <del>7</del> 4 円	水田 . 水田は特殊な土壌であるこ	温添はエデル.	
小田	とから他と区分する.	反因域モノル	

表 4-3 モデル上の地目分類

浸透域	国土数値情報の土地利用で山林 ,	
(締め固められていない土地)	畑地等をこの区分とする	
浸透域	造成などにより締め固められた	
(締め固められた土地)	土地利用の浸透域	



図 4-5 ブロック内の水の流れ概要図

以下に不浸透域と浸透域モデルの考え方を示す.

- 1) 不浸透域モデル
  - a.概要

不浸透域モデル(図 4-6,図 4-7)の基礎式を示すと次式となる.

$$\frac{dS_{imp}}{dt} = P - D_{imp} - E_{imp}$$
(1)

ここに,

P : 降水量

S<sub>imp</sub>:不浸透域窪地貯留池の貯留量

D<sub>imp</sub> : 不浸透域からの表面流出

Eimp : 不浸透域窪地貯留池からの蒸発量



図 4-6 不浸透域のモデル化の概念



図 4-7 不浸透域モデルの計算フローと入出力の関係

b.表面流出

降水量と窪地貯留能を比較して,降水量が上回ればその余剰分を表面流出とする.

c.蒸発散

ここではハーモン式により可能蒸発量を算定し, 窪地貯留池の水量を上限として実蒸発量を算定する.計算の手順は下記である.

降水中は,可能蒸発量はゼロとする.

窪地貯留池の水量と可能蒸発量を比較し,窪地貯留池の水量を上限として実蒸発量を求める.

2) 浸透域モデル

a.概要

一般に河川への流出は表面流出と中間流出(速い中間流と遅い中間流),それに地下水流出により 構成されていると言われる.ここでは,図4-8に示すようなモデルを作成する.図中の左側の図が雨 水流出経路の概念図であり,それを右図のように表層土壌モデル及び地下水層モデルとして表現する こととする.表層土壌モデル内では,土壌の水分伝達特性としてRichards式を基礎式として表現し, 簡単な数値解法で水分量の追跡を行うこととする.計算フローと入出力の関係を図4-9に示した.

貯留量を窪地貯留池,表層土壌内,および地下水層内の3種類に分けて考えることとし,次式を基礎式とする.

$$\frac{dS_1}{dt} = U_s - E_1 - D_s \tag{2}$$

$$\frac{dS_2}{dt} = P - E_3 - R - I - U_s + P_{a1}$$
(3)

$$\frac{dS_g}{dt} = R - D_g - P_{a2} \tag{4}$$

- ここに ,
  - S<sub>1</sub>: 窪地貯留池の貯留量
  - S<sub>2</sub>:表層土壌内の貯留量
  - S<sub>g</sub> :地下水層内の貯留量
  - D<sub>s</sub> : 表面流出量
  - E<sub>1</sub>:窪地貯留池からの蒸発量
  - E<sub>2</sub>:表層土壌内からの蒸発量
  - P : 表層土壌への浸潤量(=降水量)
  - R :地下水涵養量(降下浸透量)
  - I :中間流出量(側方浸透流)
  - U<sub>s</sub>: 地表面への復帰流
  - D<sub>g</sub> : 地下水流出量
  - P<sub>a1</sub>
     :表層土壌へ浸入する人工系水循環水量

     (灌漑水量(水田の場合のみ),上水道漏水量などの合計)
  - P<sub>a2</sub>: 帯水層から引き抜かれる人工系水循環水量
     (井戸揚水量,下水道管渠への浸入水量などの合計)

以下に,蒸発散,鉛直浸透,側方浸透,復帰流の順に計算手法を説明する.



図 4-8 裸地のモデル化の概念



図 4-9 裸地モデルの計算フローと入出力の関係

b.蒸発散

蒸発散は,樹冠などからの蒸散と窪地や裸地からの蒸発に大別できる.これらの現象に影響を与え る要因は,気温,風速,湿度,樹種など多くが言われており,その確定した評価手法は未だ開発段階 といってよい.そこで,ここではハーモン式により可能蒸発量を算定し,窪地貯留池と土壌含水量の 合計を上限として実蒸発量を算定する.計算の手順は下記である.

降水中は,可能蒸発量はゼロとする.

 窪地貯留池の水量と可能蒸発量を比較し,窪地貯留池の水量を上限として実蒸発量を求める.
 可能蒸発量から で算定した実蒸発量を比較して,可能蒸発量が余る場合はその余剰部分を土 壌からの可能蒸発量とする.

土壌からの可能蒸発量と土壌含水量を比較して,土壌含水量を上限として実蒸発量を求める. で求めた窪地貯留池からの実蒸発量にこれを加えて,流域からの実蒸発量とする.

土壌の体積含水率は,実蒸発量を減じた値で更新する.

c.鉛直浸透

[浸潤(地表面を通過する浸透量)]

地表面を通過する浸潤量(浸透量)は,土壌の含水率(乾き具合)により様々に変化することが言われている.含水率が低ければ,浸潤の速度は大きくなり,この速度は土壌が飽和に近づくにつれて 飽和透水係数に漸近する.しかし,ここでは単純に,地下水層モデルが飽和するまでは無条件で浸潤 が生じるとする.

降水量と窪地貯留池の水分量は全て,地表面を通過し,その分だけ土壌含水量が増加することとする.計算上は一時的な過飽和状態(土壌の全空隙よりも水分量が上回る状態)が生じる場合もある. [降下浸透(地下水涵養)]

土壌の水分量は、鉛直下方向には重力により排水されるが、排水が進み含水率が低下すると、土壌

の不飽和透水係数が小さくなり,排水速度が減少することとなる.ここでは,この機構を単純にモデ ル化するために, T(ここでは1時間)を10等分して,状態量(土壌の体積含水率)を順次更新 して行く陽形式の差分計算とする.計算手法は下記である.

土壌の含水率から不飽和透水係数を算定する.

d t(= T/10)の間はその不飽和透水係数が継続するとして,土壌含水量を重力排水する. 流速は(不飽和透水係数)×(1.0)とする.

土壌含水量から排水量を減じ,土壌の体積含水率を更新する.

に戻り,これを10回繰り返す.

$$R = \int_{T}^{T+\Delta T} K_{0} \cdot k_{r}(\theta) dt$$

$$\Xi \Xi | \Xi, \qquad (5)$$

 $K_0$  : 飽和透水係数  $k_r()$  : 相対透水係数

:体積含水率

d.側方浸透

土壌内に浸潤した水分は鉛直方向に重力排水されると同時に斜面に平行な方向(斜面方向)にも流 速ベクトルを生じる.これには直接流出成分を構成する速い中間流と基底流出を構成する遅い中間流 が含まれる.速い中間流は,土壌中の大孔隙(動植物がつくる穴など)や土壌中に発達した亀裂や水 みちを通る流れが主成分と考えられ,これはパイプ流などと呼ばれる.他方,遅い中間流は土壌の中 を一様に進行する浸透流であり,側方浸透などと呼ばれる.

斜面方向の流れは鉛直方向の浸透現象と同時に生じているが,モデル化の際には簡単化のために, 鉛直方向の浸透を先に計算し,その状態から斜面方向の流れを計算する.また,パイプ流の存在を考 えて,鉛直方向と斜面方向の飽和透水係数は異なることとし,斜面方向を大きな値とする.計算手法 は下記である.

土壌の含水率から不飽和透水係数(斜面方向)を算定する.

d t (= T/10)の間はその不飽和透水係数が継続するとして,流下量を算定する.流速は (不飽和透水係数)×(斜面勾配)とする.

土壌含水量から流下量を減じ,土壌の体積含水率を更新する.

に戻り,これを10回繰り返す.

$$I = \int_{T}^{T+\Delta T} K_{0I} \cdot kr(\theta) \cdot sdt$$
ここに,  
 $K_{0I}$  :斜面方向飽和透水係数  
 $k_{r}$  :相対透水係数  
s :斜面勾配
(6)

e.復帰流

側方浸透流の計算を終えた段階で,土壌の含水率が飽和含水率を上回る場合は,復帰流が生じたこ ととして,地表面流を発生させる.計算手法は下記の通りである.

側方浸透の計算を終了した時点で,土壌の体積含水率と飽和含水率を比較して,土壌の体積含 水率が飽和含水率を上回る場合は,その過剰分を地表面へ戻す.

地表面上の水深と窪地貯留能を比較して,窪地貯留能を上回る部分の水量は,表面流出させる.

f.水分伝達特性

鉛直方向と斜面方向の浸透量を計算する際に,不飽和透水係数を用いるが,その式形はここでは Mualemの式形を用いる.鉛直方向は(8)式であり,斜面方向は(9)式で求める.

Mualem(1978)の不飽和透水係数~含水率の関係

$$k_r(\theta) = \left(\frac{\theta - \theta_r}{\theta_0 - \theta_r}\right)^n \tag{7}$$

$$k = K_0 k_r(\theta) \tag{8}$$

$$k = K_{0l} k_r(\theta) \tag{9}$$

ここに,	
k <sub>r</sub>	:相対透水係数
k	:不飽和透水係数[cm/s]
$K_0$	: 飽和透水係数[cm/s]
$K_{0I}$	:斜面方向飽和透水係数[cm/s]
n	:定数(Mualemのn)
$\theta$	:体積含水率[cm³/cm³]
$ heta_0$	: 飽和水分量[cm³/cm³]

$$\theta_r$$
: 残留水分量[cm<sup>3</sup>/cm<sup>3</sup>]

#### 5. 地下水解析モデル

5.1. 地下水解析モデルの選定

地下水モデルは,地表水と一体化して水収支を求める目的から,ソースコードが公開されており改良可能なモデルが対象となる.このため,**表 5-1**の2モデルを候補とした.

	GWAP	MOD-FLOW
作成元	岡山大学	USGS
次元数	準3次元 (実質2次元)	3 次元
不圧地下水の対応	対応	対応
河川とのやり取り	未対応	パッケージにより対応
涵養量	期間ごとに設定可能	

表 5-1 各地下水モデルの特徴

地下水解析精度が求められると同時に,合意形成のための計算速度の短縮化についても気に掛けて おく必要がある.また,実際的な地下水データ,鉛直方向の土壌データ等の整備状況を考えると,無 闇に高度な3次元の解析を行うよりも,存在するデータを最大限に利用して精度向上を目指す必要が ある.このため,地下水解析プログラムとしては GWAP を選択する.なお,GWAP の特徴としては,広 域地下水解析モデル及び有限要素法がキーワードとして挙げられる.

#### 5.2. 広域地下水解析モデルの理論

本節で紹介する地下水流動モデル(GWAP:Ground Water Analysis Program)は,広域地下水の流れを 表現する.これは,帯水層の厚さに較べて水平方向に十分な広がりを持っている帯水層あるいは帯水 層の一部を対象としていることを意味する.

地下水の流れは大きく被圧地下水流と不圧地下水流に分類され,それぞれ被圧帯水層および不圧帯 水層を流動する地下水流

のことである.被圧帯水 層とは,その上位に水の 移動を阻害する多孔体の 単元である加圧層が存在 するものをさし,不圧帯 水層とはその上部の境界 が地下水面であるものを さす.GWAPでは,被圧帯 水層および不圧帯水層に おける飽和地下水流動解 析を可能としている. 図 5-1 地下水形態(出 典:地下水理学 丸善株 式会社 P16)



なお,不圧帯水層には飽和流と不飽和流[次ページ参照]が介在するが,GWAP では飽和浸透流解析の みを再現し,不飽和過程の浸透は浸透率により表現している.

[飽和流と不飽和流]

下図は代表的な含水状態(ペンデュラー水,ファニキュラー水,おおび飽和),つまり含水率の増 減に伴う誘導力,つまり,表面張力(毛管力),重力,および圧力の三者がどのように変化するかが定 性的に描かれている.含水率が小さいとき,間隙水は土粒子の接触点に表面張力によって保持され, 液島(liquid islands)を形成する.この場合は,表面張力が支配的となり,液島に作用する重力は 間隙水の運動には弱い影響しか与えない.含水率が増し,液島が消え,土粒子間隙中に球状気泡が形 成される含水状態になると,表面張力は気泡形状を保つ程度になり,重力と水圧によって間隙水は運 動するようになる.表面張力は弱く,重力と圧力が間隙水の運動に関与するようになる.更に含水率 が増し,飽和状態になると,表面張力は消え,重力と圧力のみが間隙水の運動に関与するようになる. 結論的には,含水率が小さいと表面張力が支配的となるが,飽和になると重力と圧力が支配的とな る.このことは,地下水の流れのモデル化を行う際,基本的に重要となる.



⇒ 含水率 n

**:**: 葛寛, h : 水頭, h<sub>c</sub> : 毛管水頭, p<sub>c</sub> : 毛管水圧(負値), γ (= ρg) : 水の単位体積重量



図 5-2 飽和流と不飽和流の関係(出典:地下水理学 丸善株式会社 P14,P83)

27

#### 5.2.1. 帯水層内の流動特性

帯水層の通水能力は透水係数で表され,GWAPのような準3次元モデルでは,この透水係数を鉛直方向に積分するか,透水係数に帯水層の飽和帯の層厚をかけた値である,透水量係数として知られる平均通水特性値を用いて断面の通水能力を表現している.被圧帯水層の透水量係数は,その帯水層が均質で一様な厚さであるならば一定値となるが,不圧帯水層では飽和帯の層厚が地下水面の高さに依存するため透水量係数は常に空間的に異なった値となる.





ほとんどの解析では,一般化された流れの方程式は,流れ流域内にある帯水層のコントロールボリ ュームにおける質量保存則を適用することで定式化される.この体積に流入する正味の流量は調査対 象の<u>体積内で水が累積される率(S<sub>s</sub>:比貯留係数)に等しくなければならず,次式で誘導される(詳細 後述).</u>

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) - q = S_s \frac{\partial h}{\partial t}^2$$
 (数式 5-1)

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> (数式 5-1)は深度方向に積分する前の式

ここで,

*i*, *j*:1,2,3 主透水座標方向)
 *K*:透水係数(*L*/*T*)
 *h*:水頭(*L*)
 *S*<sub>s</sub>:比貯留係数(*L*<sup>-1</sup>)
 *Q*:単位体積当たりの部分的な注水あるいは吸い込み(1/*T*)
 *x*:空間座標(*L*)
 *t*:時間(*T*)

(数式 5-1)中の比貯留係数S<sub>s</sub>は,単位水頭変化に対して帯水層内の単位体積当たりに貯留から解放 あるいは貯留される水量を表している.S<sub>s</sub>は不圧条件下では 10<sup>-1</sup>のオーダーである比産出率を用い, 被圧条件下では 10<sup>-4</sup>のオーダーの比貯留係数を用いる.また,比算出率は有効間隙率に等しいとされる.

材料 比貯留率(1/m) 塑性粘土  $2.6-20 \times 10^{-3}$ 硬質粘土  $1.3-2.6 \times 20^{-3}$ 中程度の硬質粘土 9.2-13 × 10<sup>-4</sup>  $4.9 - 10 \times 10^{-5}$ 蜜詰め砂礫 接合亀裂性岩  $3.3-69 \times 10^{-6}$ 緩詰め砂  $4.9 - 10 \times 10^{-3}$  $1.3-2.0 \times 10 \times 10^{-3}$ 蜜詰め綱

表 5-2 比貯留係数

表 5-3 比産出率

材料	比産出率〔無次元〕
粘土	0.01-0.18
細礫	0.13-0.40
中礫	0.17-0.44
粗礫	0.18-0.43
石灰岩	0.00-0.36
レス	0.14-0.22
細砂	0.01-0.46
中砂	0.16-0.46
粗砂	0.18-0.43
イオリス砂	0.32-0.47
細粒砂岩	0.02-0.40
中粒砂岩	0.12-0.41
片岩	0.22-0.33

風化片岩	0.06-0.21
シルト	0.01-0.39
シルト岩	0.01-0.33
凝灰岩	0.02-0.47

5.2.2. 支配方程式

ここでは,地下水の流れの基礎方程式について記述する.

1) 質量保存則

最初に, control volume と称される図 5-4 に示すような微小立方体を考える.この立方体はこれから我々が議論する地下水および地下水流動媒体のあらゆる特性を有するものと考える.



図 5-4 Control Volume

この立方体内を流れが通過し,その成分を xyz 直交座標の三成分に分割して整理すると,立方体の 各軸直交面を通過する流れは**図** 5-4 に示す標記で表す事ができる.ここで,上流側から流入した1成 分方向の流れ(例えば $v_x$ )は control volume を通過する間に成分方向の増分項[( $\partial_x / \partial x$ ) x]だけ変化 することを示している.これにはいくつかの説明があるが,ここでは Istok(1989)の解説を紹介する. 流入(あるいは上流)側で( $v_x$ )の質量流入を有する流れが,微小区間 x 間に速度変化を受けた場 合,流出(あるいは下流)側では Taylor 展開を適用すると次式で表す事ができる.

$$\rho v_{x} + \frac{\partial}{\partial x} (\rho v_{x}) \Delta x + \frac{\partial^{2}}{2! \partial x^{2}} (\rho v_{x}) (\Delta x)^{2} + \frac{\partial^{3}}{3! \partial x^{3}} (\rho v_{x}) (\Delta x)^{3} + \cdots$$
 (数式 5-2)

ここで、は流体密度

上式の形で用いられる事の多い<u>「微小区間 xでは高次のベキ乗項は無視できる」</u>という仮定を導入 すると,流出側の質量流速成分は次式となる.

$$\rho v_x + \frac{\partial}{\partial x} (\rho v_x) \Delta x$$
 (数式 5-3)

さらに,体積内で単位体積当たりの sink / source(排水/注入)項 q(>0 で排水)を導入,単位時間当た りの流出入流量を三方向成分について総計すると,この体積内での質量保存則から以下の連続の式が 誘導できる.

$$\rho v_{x} \Delta y \Delta z + \rho v_{y} \Delta z \Delta x + \rho v_{z} \Delta x \Delta y$$

$$-\left(\left(\rho v_{x} + \frac{\partial \rho v_{x}}{\partial x} \Delta x\right) \Delta y \Delta z + \left(\rho v_{y} + \frac{\partial \rho v_{y}}{\partial y} \Delta y\right) \Delta z \Delta x + \left(\rho v_{z} + \frac{\partial \rho v_{z}}{\partial z} \Delta z\right) \Delta x \Delta y\right) \quad (\textbf{XT 5-4})$$

$$-\rho q \Delta x \Delta y \Delta z = \frac{\partial}{\partial t} (\rho S_{w} n) \Delta x \Delta y \Delta z$$

ここで, Sw は飽和度, nは有効間隙率,

q は体積内の単位体積当たりのシンク/ソース流量[L<sup>3</sup>/TL<sup>3</sup>](排水時, q>0)

上式は、「左辺第1項の流入量から第2項の流出量と第3項の排水流量を差し引くと、右辺貯留項 が残留する」ことを示している.右辺貯留項は、ある体積内の空隙(間隙率で表現)にどれくらいの 水が貯まっている(飽和度)程度を示している.

(数式 5-4)を整理し,両辺を立方体体積(xyz)で除し,単位体積当たりの収支をみると以下となる.

$$-\frac{\partial \rho v_x}{\partial x} - \frac{\partial \rho v_y}{\partial y} - \frac{\partial \rho v_z}{\partial z} - \rho q = \frac{\partial}{\partial t} \left( \rho S_w n \right)$$
(数式 5-5)

定常流解析 (時間変化を考慮しない)のときは,時間変化が無視できることから(数式 5-5)の右辺 項を  $\frac{\partial}{\partial t} (\rho S_w n) = 0$ とした,以下の式が用いられる.

$$-\frac{\partial \rho v_x}{\partial x} - \frac{\partial \rho v_y}{\partial y} - \frac{\partial \rho v_z}{\partial z} - \rho q = 0$$
 (数式 5-5')

2) 運動方程式と透水係数テンソル

ここで, Darcy 則を運動の式として左辺流速項 v に適用して, 水頭 h を導入する. Darcy 則は以下のように流れ方向成分に着目したものが一般に知られている.

$$v_x = -K_x \frac{\partial h}{\partial x}, \quad v_y = -K_y \frac{\partial h}{\partial y}, \quad v_z = -K_z \frac{\partial h}{\partial z}$$
 (数式 5-6)

一般化表現として透水係数テンソルを用いた各方向成分の流速を示す.

$$\begin{cases} v_{x} \\ v_{y} \\ v_{z} \end{cases} = - \begin{bmatrix} K_{xx} & K_{xy} & K_{xz} \\ K_{yx} & K_{yy} & K_{yz} \\ K_{zx} & K_{zy} & K_{zz} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \frac{\partial h}{\partial x} \\ \frac{\partial h}{\partial y} \\ \frac{\partial h}{\partial z} \end{bmatrix}$$
(数式 5-7)

この透水係数テンソルは対称性(Kxy=Kyx, Kyz=Kzy, Kxz=Kzx)である.

#### 3) 支配方程式

これらの流速 vを(数式 5-5)に代入すると次式を得る.

$$\frac{\partial}{\partial x} \left( \rho K_{xx} \frac{\partial h}{\partial x} + \rho K_{xy} \frac{\partial h}{\partial y} + \rho K_{xz} \frac{\partial h}{\partial z} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left( \rho K_{yx} \frac{\partial h}{\partial x} + \rho K_{yy} \frac{\partial h}{\partial y} + \rho K_{yz} \frac{\partial h}{\partial z} \right)$$
(数式 5-8)
$$+ \frac{\partial}{\partial z} \left( \rho K_{zx} \frac{\partial h}{\partial x} + \rho K_{zy} \frac{\partial h}{\partial y} + \rho K_{zz} \frac{\partial h}{\partial z} \right) - \rho q = \frac{\partial}{\partial z} \left( \rho S_w n \right)$$

アインシュタインの縮約(以後, i, j のみ縮約記号)を用いれば,以下のとおりである.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( \rho K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) - \rho q = \frac{\partial}{\partial t} \left( \rho S_w n \right)$$

$$i, j = 1, 2, 3, (1 : x, 2 : y, 3 : z)$$
(数式 5-9)

(数式 5-9)を流体密度とダルシー則項に分けて微分を進めると以下のとおり.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( \rho K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) = \frac{\partial \rho}{\partial x_i} \cdot K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_{ij}} + \rho \frac{\partial}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right)$$
(数式 5-10)

ここで,流体密度 は空間について非圧縮性であるとすると上式右辺第一項は0となる.よって, (数式 5-10)は次式となる.

$$\frac{\partial \rho}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) = \rho \frac{\partial}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right)$$
(数式 5-11)

また,(数式 5-9)右辺時間微分項(み/み)を全微分すると以下のとおりとなる.

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho S_w n) = \rho S_w \frac{\partial}{\partial t}(n) + S_w n \frac{\partial}{\partial t}(\rho) + \rho n \frac{\partial}{\partial t}(S_w)$$
(数式 5-12)

ここで,上式の各項に以下の貯留性の解釈を適用する.

 $\frac{\partial}{\partial t}(n)$
以下の議論は, 飽和媒体内の水頭変化による空隙変化とこれに伴う排水/貯留を検討するものとし, 不飽和状態ではこの関連による変化は考慮しない。

微小帯水層の固体部分のボリューム (1-n) x y z = - 定と考え, n で 微分を行った上で時間 微分表示を行うと以下のとおり.

$$\Delta z \left(\frac{\partial n}{\partial t}\right) = (1 - n) \frac{\partial (\Delta z)}{\partial t}$$
 (数式 5-13)

また , 微小帯水層 ( 骨格 ) の圧縮率 を用い  $lpha (1-n) = -rac{\partial n}{\partial \sigma_z} (\sigma_z$  : 鉛直有効応力) より以下



さらに , 全応力 (一定) = 有効応力 + 間隙水圧より  $\frac{\partial \sigma_z}{\partial t} = -\frac{\partial p}{\partial t}$  となるため , 最終的には以下の形にまとめることができる .

$$\frac{\partial n}{\partial t} = \alpha (1 - n) \frac{\partial p}{\partial t}$$
 (数式 5-15)

ここで,媒体の圧縮は飽和状態(Sw=1)でのみ生じるとしている.

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho)$$

流体を非圧縮性(=constant)とみると微分項は0となるが,流体が圧縮すると考え,その圧縮率をとすると以下のようになる.

$$\beta \rho = \frac{\partial \rho}{\partial p}$$

また,時間微分表示を行うと,

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} = \rho \beta \frac{\partial p}{\partial t}$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(S_w)$$

飽和流のみを扱う場合にはこの項は0となる.

<u>飽和流( $\frac{\partial Sw}{\partial t} = 0$ )を扱うと考え(Sw=1.0=一定)</u>, また,  $\frac{\partial p}{\partial t} = \rho g \frac{\partial h}{\partial t}$ を用いて, これらをまとめる と以下の地下水の支配方程式が整理される.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) - q = \left[ \alpha (1-n) + \beta n \right] \frac{\partial p}{\partial t} = \left[ \alpha (1-n) + \beta n \right] \rho g \frac{\partial h}{\partial t} = S_s \frac{\partial h}{\partial t}$$
(数式 5-16)

【メモ】

不圧条件下では実用上,比貯留係数は比産出率に等しい.被圧条件下では,水と土粒子マトリックスの 圧縮性によって水は貯留あるいは解放される.10<sup>-1</sup>のオーダである比産出率と比較すると,被圧下の貯留 係数は小さく10<sup>-4</sup>のオーダー範囲である.

また,不圧条件下では比貯留係数を有効間隙率n<sub>e</sub>とし,hを不圧面までの高さとすることで(数式 1-16) を適用できる.(参考:右辺 =  $n_e \frac{\partial h}{\partial t}$ )

5.2.3. 境界条件および初期条件

1) 境界条件

浸透解析で考慮される事の多い境界条件は以下のものである.

既知水頭境界(第一種境界, Dirichlet 条件)

既知水頭境界は,河川,湖沼,運河,海岸,水たまりといった<u>表面水が帯水層と自由に接触するとき</u>にみられる.

浸透解析では水頭値が変量として扱われるが,既知水頭境界ではこれを変量とは扱わず,指定 された経過時間に対応した既知量を強制的に水頭値として指定する.

$$h(x,t) = H_{b}(x,t) \tag{bd} 5-17$$

ここで, H<sub>b</sub>は既知水頭の時間に対する関数であり, 最も簡単なものは時間に依存せず一定値を導入する.

既知流量境界(ノイマン条件)

流量値を境界条件とするもので,境界面を通過する流量で規定される.非流動境界条件の場合は流 束に0を与える.

$$K_{ij}\frac{\partial h}{\partial x_i}n_i = -V(x_i, t)$$
 (数式 5-18)

Vは境界面を通過する流速,n;は境界面に垂直なベクトルのi座標方向成分である.

半透水性境界(第3種,混合,コーシー,フーリエ,水頭依存境界)

半透水性境界は,帯水層と表面水の間で水が表面水と地下水間の水頭差に依存して移動する境界で ある(流量あるいは水頭が前もって規定できない).この境界は表面水域からの漏水を表現するために 一般に用いられる.

漏水原理を用いるモデルでは半透水性境界を導入すると便利である.流量はダルシー則を適用する ことで近似される.動水勾配は半透水性境界河床厚さ間の水頭差である.以下の式により現地検討で 未知量となる透水係数Kと層厚dを漏水抵抗cと呼ばれる1つのパラメタで表現し,半透水境界を表 現する.

$$c(c: 漏水抵抗(leakance)) = \frac{K}{d}(K: 透水係数、 d: 層厚)$$

ここで, c は次元[T<sup>-1</sup>]で示される.

こうして,半透水性境界は以下の形になる.

$$K\frac{\partial h}{\partial x} - c(h - H) = 0$$
 (数式 5-19)

h:地下水水頭[L]

ここで , H:表面水高さ[L]

K:帯水層の透水係数[L/T]

半透水性境界では境界における地下水水頭と地下水流量には線形関係にある.よって,非常に大きな c の値を選ぶときには,半透水性境界は既知水頭境界として作用する.反対に,もし c がゼロに近づくと,表面水は地下水系から全く分離される.

2) 初期条件

非定常問題では,計算開始段階での水頭分布を設定する.

$$h(x,t=0) = H_0(x)$$
 (数式 5-20)

一般には,初期条件は非定常問題でのみ必要である.しかし,非線形解析では前段階の水頭分布を 基に物性および境界条件を設定する事から,定常問題であってもリーズナブルな分布条件を用いるべ きである.

5.2.4. 準三次元への近似

三次元方程式を準三次元方程式に変換する.これは,水平方向の地下水流動が鉛直方向に比較して 大きいと仮定できるためである.透水係数に2桁程度の違いがあれば,鉛直方向の流れを無視できる と考える.これは,この程度の透水性のちがいがあれば,流線に屈折が起こって,透水性が高い地層 中の流れは境界とほぼ平行になり,透水性が低い地層中の流れはほぼ鉛直になるためである. 三次元浸透場での支配方程式を再掲する.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) - q = S_s \frac{\partial h}{\partial t}$$
 (数式 5-21)

これに対する境界条件,初期条件はそれぞれ以下のとおり.

$$h(x,t) = H_b(x,t)$$
$$K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} n_i = -V(x_i,t)$$
$$h(x,t=0) = H_0(x)$$

ここで,広域地下水解析を行うにあたり,以下の仮定を導入する.

#### 《準三次元モデルへの仮定》

【仮定 】

任意の平面位置 (x,y) において,z(x3) 方向の全水頭 h は一定である(静水圧分布):

$$\frac{\partial h}{\partial x_3} = 0$$

【仮定 】

仮定 を保ちながら,平行流れのみ扱う(Dupuit-Forchheimerの仮定)

【仮定 】

鉛直方向流れ成分を無視できることから,地下水位下の浸透層厚さわたって $z(x_3)$ 方向に積分 する事で質量保存を満たす.

- Dupuitの定理について added in Sep,2004 -

地下水面(自由表面)をもつ<u>不圧地下水流</u>は,水面勾配があまり大きくない場合,デュプイの準一様流近似(uniform flow approximation)を用い,鉛直流速を無視し,水平流速のみを考えればよい. 下図に示した x-z 軸面内の 2 次元地下水流を考える.不圧地下水は,水平流速*u* と鉛直流速*w* をもつ2次元流であり,断面内の流速分布は一様ではない.自由表面近傍の流速 $q_s$ は, $q_s = -k\frac{dz}{ds} = -k\sin\beta$ .*k*:透水係数, $\beta$ :自由表面と水平のなす角.もし, $\beta$ が小さければ, $\sin\beta \approx \tan\beta = \frac{dh}{dx}$ とかけ, $q_s$ , *u*,*w*0となり,以下のように表現できる.

$$u = -k \frac{dh}{dx}$$

この式が意味することは,微小水平区間では自由表面は水平と近似でき,静水圧近似できるという こと.つまり,下図のL区間において自由表面は dx で分割された区間毎に水平に近似され,トータル では階段状の水位が形成されるということとなる.



ゆえに, z方向の積分を行うことで,3次元方向の表現を以下の式により近似する.

$$\int_{0}^{h} \left( \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_{j}} \right) - q \right) dx_{3} = \int_{0}^{h} S_{s} \frac{dh}{dt} dz \qquad (\text{\&x 5-22})$$

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( \int_0^h K_{ij} dx_3 \cdot \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) - \int_0^h q dx_3 = \int_0^h S_s dz \cdot \frac{dh}{dt}$$
 (数式 5-23)

$$T_{ij}(h) = \int_0^h K_{ij} dx_3$$
 (数式 5-23a)

$$Q(h) = \int_0^h q dx_3$$
 (数式 5-23b)

$$S = \int_0^h S_S dx_3$$
 (数式 5-23c)

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left( T_{ij}(h) \left( \frac{\partial h}{\partial x_j} \right) \right) - Q(h) = S(h) \left( \frac{\partial h}{\partial t} \right)$$
(数式 5-24)

(数式 5-24)の縮約を解くと,以下のとおり.

$$\frac{\partial}{\partial x} \left( T_{xx} \frac{\partial h}{\partial x} + T_{xy} \frac{\partial h}{\partial y} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left( T_{yx} \frac{\partial h}{\partial x} + T_{yy} \frac{\partial h}{\partial y} \right) - Q = S \frac{\partial h}{\partial t}$$
(数式 5-25)

定式は T,S,Qが変数 hの関数となり,非線形問題を表す.各項について以下に解説する.

(1)透水量係数 7

(数式 5-23a)をみると積分は以下の足し合わせに相当する.また,被圧状態では,h はポテンシャル水頭を表し,実際の浸透断面高さはh ではなく層厚和になる.



(2) 貯留係数 S

貯留係数は「単位面積をもつ土柱において単位地下水頭の変化によって排出される水量」と定 義でき,比貯留係数に深さを掛けたものであらわされる.貯留係数は,不圧状態と被圧状態で大 きく異なる. 不圧帯水層では実際に地下水面が移動する区間の比産出率 Sy を S とおく.一般に Sy は有効間隙率 に等しいと考えられる.被圧帯水層では層厚さにおける土の圧縮性に依存する.



不圧地下水で有効間隙率を下記の理由で近似的にもちいている.

不圧地下水での貯留係数は,正確には S=n<sub>e</sub>[無次元]+S<sub>s</sub>[L<sup>-1</sup>]×D[m] となる.ところが,n<sub>e</sub>>>S<sub>s</sub>\*D よりS n<sub>e</sub>とされている.

(3)流量Q

qが微少立方体内の流量を考えているのに対してQはqを地下水面高さで積分する事で,単位面積を有する土柱内の流量を考える.

境界条件で<u>既知流量境界</u>の(数式 5-18)がそのまま適用されるが 境界においても静水圧分布条件を 確保しなければならない.

既知流量境界は以下の積分を考慮する.

$$\int_{0}^{h} K_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_{i}} dx_{3} \cdot n_{i} = -\int_{0}^{h} V(x_{i}, t)$$
 (数式 5-26)

$$T_{ij}(h)\frac{\partial h}{\partial x_{i}} \cdot n_{i} = -\int_{0}^{h} V(x_{i}, t)$$
 (数式 5-27)

流速*V*を浸透断面高さにわたって積分されたものであり 流束*Q*に一致するディメンジョンをもつ. ゆえに

$$T_{ij}(h)\frac{\partial h}{\partial x_{j}} \cdot n_{i} = -Q(x_{i}, t)$$
 (数式 5-28)

#### 5.3. 広域地下水モデルの有限要素法による解法

前章にあるとおり,地下水解析における準三次元の支配方程式は以下のとおりである.

$$\frac{\partial}{\partial x_i} \left[ T_{ij} \frac{\partial h}{\partial x_j} \right] = S \frac{\partial h}{\partial t} + Q \qquad (\text{数式 5-29})$$

(ただし, i, j = 1, 2)

(数式 5-29)を有限要素近似で表す.まず,全領域を所定の多角形で分割し,この多角形を要素, 多角形を構成する頂点を節点と呼ぶ.各多角形は,節点と隣り合う節点で結ばれる境界面で結合して いるものとし,浸透解析では各節点に水頭をもつことになる.

ここで,(数式 5-29)式はあくまでも一つの微小要素内での釣り合いを考慮したものであるため, 微小とは言えない大きさの要素にわたっての釣り合い関係を評価する必要がある.このためには,要 素内での水頭分布を近似する必要がある.この水頭近似に用いられるのが内挿関数と呼ばれるもので ある.

5.3.1. 定常モデルによる有限要素解法

ある要素 E のなかの内装関数は,以下のように表現できる.

 $h(x, y) = \alpha + \beta x + \gamma y \qquad (\text{数式 5-30})$ 



図 5-6 三角形要素における節点と水頭の考え方

ここで,それぞれの節点に対して内装関数を適用すると以下のように表現できる.

$$\begin{array}{c} h(x_1, y_1) = h_1 = \alpha + \beta x_1 + \gamma y_1 \\ h(x_2, y_2) = h_2 = \alpha + \beta x_2 + \gamma y_2 \\ h(x_3, y_3) = h_3 = \alpha + \beta x_3 + \gamma y_3 \end{array}$$
 (数式 5-31)

これらを連立方程式として解くと, 各係数( $\alpha, \beta, \gamma$ )は以下のようになる.

$$\alpha = \begin{vmatrix} h_1 & x_1 & y_1 \\ h_2 & x_2 & y_2 \\ h_3 & x_3 & y_3 \end{vmatrix} / D \qquad \beta = \begin{vmatrix} 1 & h_1 & y_1 \\ 1 & h_2 & y_2 \\ 1 & h_3 & y_3 \end{vmatrix} / D$$

(数式 5-32)

$$\gamma = \begin{vmatrix} 1 & x_1 & h_1 \\ 1 & x_2 & h_2 \\ 1 & x_3 & h_3 \end{vmatrix} / D \qquad D = \begin{vmatrix} 1 & x_1 & y_1 \\ 1 & x_2 & y_2 \\ 1 & x_3 & y_3 \end{vmatrix} = 2F_{\Delta}$$

ここで,  $F_{\Delta}$ は節点1,2,3を結んだ三角形の面積.上記小行列式に以下の記号を導入し,(数式 5-31) に代入すると,

$$A_1 = x_2 y_3 - y_2 x_3$$
 $B_1 = y_2 - y_3$  $C_1 = x_3 - x_2$  $A_2 = x_3 y_1 - y_3 x_1$  $B_2 = y_3 - y_1$  $C_2 = x_1 - x_3$  $A_3 = x_1 y_2 - y_1 x_2$  $B_3 = y_1 - y_2$  $C_3 = x_2 - x_1$ 

$$h(x, y) = (h_1(A_1 + B_1x + C_1y) + h_2(A_2 + B_2x + C_2y) + h_3(A_3 + B_3x + C_3y))/D \quad (\text{XX 5-34})$$

となる.この式は,要素Eの中の任意の点の水頭を各節点(節点1,節点2,節点3)の水頭値を用 いて表現している.

この算定した水頭にダルシー則を適用する.ただし,要素内の透水係数はkfの一定値とする.

$$v_{x} = -k_{f} \cdot \frac{\partial h}{\partial x} = -k_{f} \left( h_{1}B_{1} + h_{2}B_{2} + h_{3}B_{3} \right) / D$$

$$v_{y} = -k_{f} \cdot \frac{\partial h}{\partial y} = -k_{f} \left( h_{1}C_{1} + h_{2}C_{2} + h_{3}C_{3} \right) / D$$
(数式 5-35)

透水係数と飽和帯の厚さは,節点よりも要素内の特性として表現される.このため,節点それぞれ に透水係数または飽和帯の厚さを割り当てるならば,平均化操作が必要である.

ここで,三角形の各辺を横切る流量を $Q_{S1}$ 、 $Q_{S2}$ 、 $Q_{S3}$ とする.これらについて要素内の連続性を 考えるため,辺を横切る流量を要素の3節点に割り当てることを考える.節点流量を $W_1$ 、 $W_2$ 、 $W_3$ とし,どの節点にもそれを挟む2つの辺を横切る流量の半分を割り当て,要素内の連続性 ( $Q_{S1} + Q_{S2} + Q_{S3} = 0$ )を適用すると,以下の式が考えられる.

$$W_{1} = 0.5Q_{s3} + 0.5Q_{s2} = -0.5Q_{s1}$$
  

$$W_{2} = 0.5Q_{s1} + 0.5Q_{s3} = -0.5Q_{s2}$$
 (数式 5-36)  

$$W_{3} = 0.5Q_{s2} + 0.5Q_{s1} = -0.5Q_{s3}$$



図 5-7 節点流量の定義

各辺を横切る $Q_{S1}$ 、 $Q_{S2}$ 、 $Q_{S3}$ をダルシー流速 $W_1$ 、 $W_2$ 、 $W_3$ で表現すると以下のとおりとなる.ただし,飽和帯の厚さをmとする.

$$Q_{S1} = \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} y_2 - y_3 \\ -(x_2 - x_3) \end{pmatrix} \cdot m \qquad \qquad Q_{S2} = \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} y_3 - y_1 \\ -(x_3 - x_1) \end{pmatrix} \cdot m$$

$$(\textbf{XX 5-37})$$

$$Q_{S3} = \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} y_1 - y_2 \\ -(x_1 - x_2) \end{pmatrix} \cdot m$$

(数式 5-36)に(数式 5-35),(数式 5-37)を代入し,T=kf・mを用いると,要素内の節点流量を得る.

$$W_{1} = \frac{T}{2D} \Big[ h_{1} \Big( B_{1}B_{1} + C_{1}C_{1} \Big) + h_{2} \Big( B_{2}B_{1} + C_{2}C_{1} \Big) + h_{3} \Big( B_{3}B_{1} + C_{3}C_{1} \Big) \Big]$$
  

$$W_{2} = \frac{T}{2D} \Big[ h_{1} \Big( B_{2}B_{1} + C_{2}C_{1} \Big) + h_{2} \Big( B_{2}B_{2} + C_{2}C_{2} \Big) + h_{3} \Big( B_{3}B_{2} + C_{3}C_{2} \Big) \Big]$$

$$W_{3} = \frac{T}{2D} \Big[ h_{1} \Big( B_{3}B_{1} + C_{3}C_{1} \Big) + h_{2} \Big( B_{3}B_{2} + C_{3}C_{2} \Big) + h_{3} \Big( B_{3}B_{3} + C_{3}C_{3} \Big) \Big]$$
(2)

水頭以外の変数を  $E_{ij} = (B_i B_j + C_i C_j) \cdot T / (2D)$  とすると , (数式 5-38)は以下のような簡単な式となる .

$$W_i = \sum_{j=1}^{3} E_{ij} \cdot h_i$$
(数式 5-39)

ここに, *i=1,2,3*, *j=1,2,3*である.

これより, 節点の局所標示を全体標示に変換する. 節点の全体番号 k を要素番号 e と局所節点番号 i として与えると以下のようになる.

$$k = n(e,i) \tag{数式 5-40}$$

ここに, i=1,2,3, e=1,2, ・・・,M である.

隣り合う要素のかどの点として表現される節点は,複数の組み合わせ(*e*,*i*)で表現されるが,それ ら全ては(数式 5-40)によりただ一つの全体節点番号として変換される.



図 5-8 局所標示から全体標示への変換 要素 E についての節点座標,水頭値,流量は次のように変換される.

 $x_i^e \to x_k$   $y_i^e \to y_k$   $h_i^e \to h_k$   $W_i^e \to W_k^e$  (数式 5-41) ここに, k = n(e,i)である.また,流量については隣り合う要素の重複した節点のうち要素 E に係 わる流量の意味で $W_k^e$ の表現としている.

現在は要素 E の諸元のみを算出対象としているため,要素の任意水頭 h(x,y)を算出する際,三つの ベクトル $A_i^e, B_i^e, C_i^e$ の3成分以外はすべてゼロのN個のベクトルに変換される.そして,結果的には 要素 E の各節点の流量を算出する際に用いる要素行列 $E_{ij}^e$ は9成分以外はすべてゼロであるN行N列 の行列に変換される.

 $A_i^e \to A_k^e$   $B_i^e \to B_k^e$   $C_i^e \to C_k^e$   $E_{ij}^e \to E_{kl}^e$  (数式 5-42) ここに, i=1,2,3, j=1,2,3, k = n(e,i), l = n(e,i)であり,他の全ての成分(k,l)については  $A_k^e = B_k^e = C_k^e = E_{kl}^e = 0$ となる.要素方程式を全体番号で表現すると以下のようになる.

$$W_{k}^{e} = \sum_{l=1}^{n} E_{kl}^{e} \cdot h_{l}$$
 (数式 5-43)

なお,要素 E に含まれない全節点 k についての $W_k^e$  は自動的にゼロである( $: E_{ij}^e = 0$ ). 全要素の方程式が各節点で連続性を満たすように全体方程式の中に集められる.これは節点 k への 全要素の流れの寄与 W<sup>e</sup><sub>k</sub>と節点 k への外部からの流入(流出)量の総和がゼロでなければならないことを意味する.

$$\sum_{e=1}^{M} W_{k}^{e} - Q_{k} = 0 \quad (k = 1, 2, \dots N)$$
 (数式 5-44)

(数式 5-44)に(数式 5-43)を代入すると以下のとおり.

$$\sum_{e=1}^{M} \left[ \sum_{l=1}^{N} E_{kl}^{e} h_{l} \right] - Q_{k} = 0$$
 (数式 5-45)

または,

$$\sum_{l=1}^{N} \left[ \sum_{e=1}^{M} E_{kl}^{e} \right] h_{l} - Q_{k} = 0 \qquad (k = 1, \dots N)$$
 (数式 5-46)

一般形で表すと,

$$\sum_{l=1}^{N} a_{kl} h_{l} - Q_{k} = 0 \qquad (k = 1, \dots N)$$
 (数式 5-47)

5.3.2. 非定常モデルによる有限要素解法

水頭分布を内挿関数で近似した(数式 5-31)を利用することで,実際の水頭分布と幾ばくかの差違が生じる.つまり,支配方程式 L(h(x,y,t))=0 に内挿近似  $h^N$ を導入すると,残差があることから以下のように式値は 0 とはならない.

$$L(h^{N}(x, y, t)) \equiv \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) - Q - S \frac{\partial h^{N}}{\partial t}$$
$$L(h^{N}(x, y, t)) \neq 0 \qquad (\text{数式 5-48})$$

そこで,残差方程式に重みを掛けたものを領域全体にわたって平均化(積分)することで,全体領域 R での全体的な残差を0にする重み付き残差法(WRM)を用いる.

$$\int_{R} L(h^{N}(x, y, t)) W(x, y) dR = 0$$
 (数式 5-49)

ここで,重み関数Wの満たすべき条件について考えてみる.

残差が生じているのは節点間あるいは要素内の地点での式値であり,各節点では残差は生じないことから,当該節点水頭を求める場合は $W_n(x_{n_i},y_n) = 1$  (Lotation的役割をイメージ),それ以外の節点ではW = 0をとるようなものとなる.

一般に,重み付き残差法に用いられる重み関数Wにはいくつかのものが知られているが,ここでは 重み関数Wに内挿関数Nを適用するGalerkin法を用いる. 1) Galerkin 法による定式化

(数式 5-48)に重み関数 Wを掛けて,領域全体にわたって積分する.

$$\int_{R} \left[ \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) - Q - S \frac{\partial h^{N}}{\partial t} \right] W_{n} dR = 0$$
 (数式 5-50)

Wを各項に掛けそれぞれの整理を試みる.

$$\int_{R} \left[ \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) W_{n} - QW_{n} - S \frac{\partial h^{N}}{\partial t} W_{n} \right] dR = 0 \qquad (\text{3DST 5-51})$$

ここで, $h^N$ が要素内で線型分布している(三角形要素ではこれに相当する)場合には, $h^N$ の1次の 空間微分項は定数 $\left(\frac{\partial}{\partial x_i} \left(\frac{\partial h^N}{\partial x_j}\right) = 0\right)$ となり,さらに Tij が要素内で一定値(均質)であるなら,(数式

5-51)の透水量係数を含んだ微分項は 0 $\left(rac{\partial T_{ij}}{\partial x_i}=0
ight)$ となり, (数式 5-51)を解くことができない.

そこで,以下の手順で(数式 5-51)を変形する.まず,各高次微分項は部分積分技法を用いて変形 する.

$$\int_{R} \left[ \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) W_{n} \right] dR = \int_{R} \left[ \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} W_{n} \right) \right] dR - \int_{R} \left[ \frac{\partial W_{n}}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) \right] dR \qquad (\text{3DST 5-52})$$

さらに, Gauss の積分定理から次式が誘導できる.

$$\int_{R} \left[ \frac{\partial}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} W_{n} \right) \right] dR = \int_{L} W_{n} T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} n_{i} dL \qquad (\text{XX 5-53})$$
$$\therefore \int_{R} div \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} W_{n} \right) dR = \int_{L} T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} W_{n} \cdot n_{i} dL$$

ここで, n<sub>i</sub>は境界に垂直な法線のx(x<sub>1</sub>)および y(x<sub>2</sub>)方向成分であり,境界からの水の流入出を表している.(数式 5-52 及び 5-53)をまとめると以下のとおりになる.

$$\int_{L} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} W_{n} \cdot n_{i} \right) dL - \int_{R} \left( \frac{\partial W_{n}}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial x_{j}} \right) \right) dR - \int_{R} S \frac{\partial h^{N}}{\partial t} \cdot W_{n} dR - \int_{R} Q \cdot W_{n} dR = 0 \quad (\text{ bt } 5-54)$$

(数式 5-54)の左辺第 1 積分項は境界面を通過する流入(流出)を示しているので以下のように表現できる.ただし,境界面流入(流出)のうち,x方向,y方向の流入(流出)を $Q_x^N$ 、 $Q_y^N$ とする.

$$\int_{L} W_{n} \cdot T_{ij} \frac{\partial h^{N}}{\partial t} \cdot n_{i} dL = \int_{L} W_{n} \left[ -Q_{x}^{N} - Q_{y}^{N} \right] dL = -\int_{L} W_{n} \left[ \sum_{i=1}^{2} Q_{xi}^{N} \right] dL \qquad (\text{XX 5-55})$$

ここで, $h^N$ を内挿近似式で置換する.

$$\int_{R} \left( \frac{\partial W_n}{\partial x_i} \cdot T_{ij} \frac{\partial \sum_{m=1}^{M} N_m h_m}{\partial x_j} \right) dR + \int_{L} W_n \left( \sum_{i=1}^{2} Q_{xi}^N \right) dL + \int_{R} Q W_n dR + \int_{R} S \frac{\partial \sum_{m=1}^{M} N_m h_m}{\partial t} W_n dR = 0$$

(数式 5-56)

さて,全体領域 R を有限要素に分割すると各要素領域  $R^e$  でも上式が成立する,すなわち以下となる.

$$\int_{R} L(h^{N}(x, y, t))W(x, y)dR = \sum_{1}^{Num.Elements} L(h^{N}(x, y, t))W(x, y)dR^{e}$$
(数式 5-57)

$$\int_{R^{e}} \left( \frac{\partial W_{n}^{e}}{\partial x_{i}} \cdot T_{ij} \frac{\partial \sum_{m=1}^{M} N_{m}^{e} h_{m}}{\partial x_{j}} \right) dR^{e} + \int_{L^{e}} W_{n}^{e} \left( \sum_{i=1}^{2} Q_{xi}^{N} \right) dL^{e} + \int_{R^{e}} Q W_{n}^{e} dR^{e} + \int_{R^{e}} S \frac{\partial \sum_{m=1}^{M} N_{m}^{e} h_{m}}{\partial t} W_{n}^{e} dR^{e} = 0$$

#### (数式 5-58)

これより全体領域に対しては,要素毎の(数式5-58)を全要素にわたって連立(総和)した方程式が得られる.

$$\sum_{e=1}^{Num.Elements} \left[ \int_{R^{e}} \left( \frac{\partial W_{n}^{e}}{\partial x_{i}} \cdot T_{ij} \frac{\partial \sum_{m=1}^{M} N_{m}^{e} h_{m}}{\partial x_{j}} \right) dR^{e} + \int_{L^{e}} W_{n}^{e} \left( \sum_{i=1}^{2} Q_{xi}^{N} \right) dL^{e} + \int_{R^{e}} QW_{n}^{e} dR^{e} + \int_{R^{e}} S \frac{\partial \sum_{n=1}^{M} N_{m}^{e} h_{m}}{\partial t} W_{n}^{e} dR^{e} \right] = 0$$

$$($$

各節点水頭値h<sub>m</sub>はW(x,y)=1時の値であり,座標には依存しないので積分の外に出る.よってこれをマトリックス表示すると以下のようである.

$$\left[A_{nm}\right]\left\{h_{m}\right\}+\left[F_{nm}\right]\left\{\frac{dh_{m}}{dt}\right\}=\left\{Q_{m}\right\}-\left\{D_{m}\right\}$$
(数式 5-60)

ここで,

$$\begin{bmatrix} A_{nm} \end{bmatrix} = \sum_{e=1}^{Num.Elements} \begin{bmatrix} A_{nm} \end{bmatrix}^{e}$$
  
= 
$$\sum_{e=1}^{Num.Elements} \int_{R^{e}} \left( \frac{\partial W_{n}^{e}}{\partial x_{i}} \left( T_{ij} \frac{\partial N_{m}^{e}}{\partial x_{j}} \right) \right) dR^{e}$$
 (数式 5-61)

$$\{Q_m\} = -\sum_{e=1}^{Num.Elements} \{Q_m\}^e$$

$$= -\sum_{e=1}^{Num.Elements} \int_{L^e} W_n^e N_m^e \sum_{i=1}^2 Q_{xi} dL^e$$
(数式 5-62)

(要素境界を横切る流入(流出)量)

$$\{D_m\} = \sum_{e=1}^{Num.Elements} \{D_m\}^e$$

$$= \sum_{e=1}^{Num.Elements} \int_{R^e}^{Q} Q W_m^e dR^e$$
(数式 5-63)

(要素内に流入(流出)する量)

$$\begin{bmatrix} F_{nm} \end{bmatrix} = \sum_{e=1}^{Nujm.Elements} \begin{bmatrix} F_{nm} \end{bmatrix}^{e}$$
  
= 
$$\sum_{e=1}^{Num.Elements} \int_{R^{e}} SN_{m}^{e} W_{n}^{e} dR^{e}$$
 (数式 5-64)

(数式 5-61~64)を見ると,積分は内挿関数 N と重み関数 W(Galerkin 法では両者は一致)の微積分 となっている.

ここで,以下の簡略化を導入する.

(1) 透水量係数 *T* は要素内で一定であると考えるが,透水量係数 *T* は節点上の全水頭 *h* に依存するため, *T* は要素内では *h* と同様に内挿関数による近似を行なう.よって,  $T = T_l N_l^e$  (ここで, *l* は

要素節点番号)と表すが,これは節点値の平均値 $\overline{T}$ である.

- (2)境界面で定義される断面通過流束 Q については上式では節点で定義される流束値の内挿式を示しているが,三角形要素内では一様分布とする.
- (3) 貯留成分では, 飽和状態の貯留係数 S は要素内では均一であるが, 不圧状態では節点の全水頭値 に依存する.よって,  $S = S_l N_l^e$  (ここで, l は要素節点番号)と表すが, これは節点値の平均値 $\overline{s}$ である.

また, [F]はマトリックスを表しているが, Neumanの提唱する差分法で用いられる技法の適用である Lumped Mass Method を適用して,ベクトル化する.

ここで,以下の三角形(定歪)要素における内挿関数の微分および積分を導入する.また, W=N とした.

$$\int_{R^{e}} N_{j} dR^{e} = \frac{\Delta}{3}$$

$$\int_{R^{e}} N_{i} N_{j} dR^{e} = \frac{\Delta}{12} \qquad \int_{R^{e}} N_{i} N_{i} dR^{e} = \frac{\Delta}{6}$$

$$\int_{R^{e}} \frac{\partial N_{i}}{\partial x} dR^{e} = \frac{b_{i}}{2} \qquad \int_{R^{e}} \frac{\partial N_{i}}{\partial z} dR^{e} = \frac{c_{i}}{2}$$

$$\int_{R^{e}} \frac{\partial N_{i}}{\partial x} \frac{\partial N_{j}}{\partial x} dR^{e} = \frac{b_{i}b_{j}}{4\Delta} \qquad \int_{R^{e}} \frac{\partial N_{i}}{\partial z} dR^{e} = \frac{b_{i}c_{j}}{4\Delta} \qquad \int_{R^{e}} \frac{\partial N_{i}}{\partial z} dR^{e} = \frac{c_{i}c_{j}}{4\Delta}$$
(2)

(数式 5-65)を(数式 5-61~65)に代入する.

$$\begin{split} \left[A_{ij}\right]^{e} &= \int_{R^{e}} \left[\frac{\partial W_{i}^{e}}{\partial x} \left(T_{xx} \frac{\partial N_{j}^{e}}{\partial x}\right) + \frac{\partial W_{i}^{e}}{\partial x} \left(T_{xy} \frac{\partial N_{j}^{e}}{\partial y}\right) \\ &+ \frac{\partial W_{i}^{e}}{\partial y} \left(T_{yx} \frac{\partial N_{j}^{e}}{\partial x}\right) + \frac{\partial W_{i}^{e}}{\partial y} \left(T_{yy} \frac{\partial N_{j}^{e}}{\partial y}\right) \right] dR^{e} \end{split}$$

$$&= \frac{1}{4\Delta} \left\{ T_{xx} b_{i} b_{j} + T_{xy} b_{i} c_{j} + T_{yx} b_{j} c_{i} + T_{yy} c_{i} c_{j} \right\}$$

$$&= \frac{1}{4\Delta} \left\{ T_{xx} \left[ \frac{b_{1} b_{1} \quad b_{1} b_{2} \quad b_{1} b_{3}}{b_{2} b_{1} \quad b_{2} b_{2} \quad b_{2} b_{3}} \right] + T_{yy} \left[ \frac{c_{1} c_{1} \quad c_{1} c_{2} \quad c_{1} c_{3}}{c_{2} c_{1} \quad c_{2} c_{2} \quad c_{2} c_{3}} \right] \\ &= \frac{1}{4\Delta} \left\{ T_{xx} \left[ \frac{b_{1} b_{1} \quad b_{1} b_{2} \quad b_{1} b_{3}}{b_{2} b_{1} \quad b_{3} b_{2} \quad b_{3} b_{3}} \right] + T_{yy} \left[ \frac{c_{1} c_{1} \quad c_{1} c_{2} \quad c_{1} c_{3}}{c_{3} c_{1} \quad c_{3} c_{2} \quad c_{3} c_{3}} \right] \\ &+ T_{xy} \left[ \frac{b_{1} c_{1} \quad b_{1} c_{2} \quad b_{1} c_{2}}{b_{2} c_{1} \quad b_{2} c_{2} \quad b_{2} c_{3}} \right] + T_{yx} \left[ \frac{c_{1} b_{1} \quad c_{1} b_{2} \quad c_{1} b_{3}}{c_{3} b_{1} \quad c_{3} b_{2} \quad c_{3} b_{3}} \right] \right\}$$

$$($$

透水係数テンソルは対称であるから, Txy=Tyxであり, これを代入すると, (数式 5-67)の $[A]^e$ マトリックスも対称になる.

$$\begin{bmatrix} A_{ij} \end{bmatrix}^{e} = \frac{1}{4\Delta} \begin{cases} T_{xx} \begin{bmatrix} b_{1}b_{1} & b_{1}b_{2} & b_{1}b_{3} \\ b_{2}b_{1} & b_{2}b_{2} & b_{2}b_{3} \\ b_{3}b_{1} & b_{3}b_{2} & b_{3}b_{3} \end{bmatrix} + T_{yy} \begin{bmatrix} c_{1}c_{1} & c_{1}c_{2} & c_{1}c_{3} \\ c_{2}c_{1} & c_{2}c_{2} & c_{2}c_{3} \\ c_{3}c_{1} & c_{3}c_{2} & c_{3}c_{3} \end{bmatrix} \\ + T_{xy} \begin{bmatrix} b_{1}c_{1} + c_{1}b_{1} & b_{1}c_{2} + c_{1}b_{2} & b_{1}c_{2} + c_{1}b_{3} \\ b_{2}c_{1} + c_{2}b_{1} & b_{2}c_{2} + c_{2}b_{2} & b_{2}c_{3} + c_{2}b_{3} \\ b_{3}c_{1} + c_{3}b_{1} & b_{3}c_{2} + c_{3}b_{2} & b_{3}c_{3} + c_{3}b_{3} \end{bmatrix} \end{cases}$$
(数式 5-68)

$$\{Q_{j}\}^{e} = -\int_{L^{e}} W_{i}^{e} N_{j} (Q_{xj} + Q_{yj}) dL = -\frac{(L(Q_{xj} + Q_{yj}))}{2}$$
(数式 5-69)

(節点jに係わる辺を横切る1/2の流量が節点流量として換算される)



節点3に係る流量=赤印流量=1/2(Q<sub>s1</sub>+Q<sub>s2</sub>)=1/2(dQ<sub>s1</sub>+dQ<sub>s2</sub>)\*L

$$\left\{D_{j}\right\}^{e} = \int_{R^{e}} QW_{i}^{e} dR^{e} = \frac{Q\Delta}{3} \begin{cases} 1\\ 1\\ 1 \\ 1 \end{cases}$$
(数式 5-70)

0

(各要素への流入(流出)量は3等分される.)

$$\left[F_{ij}\right]^{e} = \int_{R^{e}} SN_{j}^{e}W_{i}^{e}dR^{e} = \frac{\overline{S}\Delta}{12} \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1\\ 1 & 2 & 1\\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$$
(数式 5-71)

ここで,差分法で用いられるように貯留項(時間微分項の係数項)は対角項に集約される形にするため, lumped matrix 法を用いると次式となる.

$$\begin{bmatrix} F_{ij} \end{bmatrix}^e = \frac{\overline{S}\Delta}{12} \begin{bmatrix} 4 & 0 & 0 \\ 0 & 4 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{bmatrix} = \frac{\overline{S}\Delta}{3} \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$
(数式 5-72)

2) 時間項の取り扱いと非線形特性の考慮

解くべきマトリックス方程式は以下のとおりであるが,時間項については有限要素法によらず差分 法により計算する.計算ステップとしては,最初に仮定水位を設定し,これによってマトリクス方程 式を解き, 収束条件に至らなければ, 水位を再設定し再度マトリクス方程式を解くというルーチンを 追う.

$$[A_{nm}]{h_m} + [F_{nm}]{\frac{dh_m}{dt}} = {Q_n} - {D_n}$$
(数式 5-73)

扱い易くするために,上式右辺ベクトル項を一まとめにする.

$$\left[A_{nm}\right]\left\{h_{m}\right\}+\left[F_{nm}\right]\left\{\frac{dh_{m}}{dt}\right\}=\left\{C_{n}\right\}$$
(数式 5-74)

差分法における一般式は差分重みパラメータ を用いると次式で表される.

$$\left\{ \frac{1}{\Delta t} \left[ F_{nm} \right]^{k+1} + \omega \left[ A_{nm} \right]^{k+1} \right\} \left\{ h_m \right\}^{k+1}$$

$$= \left\{ \frac{1}{\Delta t} \left[ F_{nm} \right]^k - (1 - \omega) \left[ A_{nm} \right]^k \right\} \left\{ h_m \right\}^k + \left\{ (1 - \omega) \left\{ C_n \right\}^k + \omega \left\{ C_n \right\}^{k+1} \right\}$$
(数式 5-75)

ここで, は0≤ ≤1の範囲にある実数をとることができ,特に以下が知られている.

= 1:後退差分

=1/2:中央差分

また, [A], [P], {O}を確定するためには(数式 5-75)にみられるように,  $h^{k+1}$ が必要である.そこで,推定による $h^{k+1}$ からこれらの係数マトリックスや定数ベクトル項を求め,収束計算を行なう.

しかし,プログラム GWAP では,(数式 5-75)の全ての係数マトリックス([*A*],[*f*])や定数ベクト ル({*C*})項にステップ(*k*+1/2)での値を用いる.この場合も同様に $h^{k+1/2}$ を推定するが,推定時間間隔 を *t*から *t*/2 にすることになり,推定精度が幾分向上し,結果的に収束性が増すことになる.

$$\left\{ \frac{1}{\Delta t} \left[ F_{nm} \right]^{k+1/2} + \omega \left[ A_{nm} \right]^{k+1/2} \right\} \left\{ h_m \right\}^{k+1} \\
= \left\{ \frac{1}{\Delta t} \left[ F_{nm} \right]^{k+1/2} - (1 - \omega) \left[ A_{nm} \right]^{k+1/2} \right\} \left\{ h_m \right\}^k + \left\{ C_n \right\}^{k+1/2}$$
(数式 5-76)

また, *h<sup>k+1/2</sup>*の推定には以下の公式が用いられる. 各タイムステップでの最初の繰り返し計算には次式を用いる.

$$\frac{h_m^{k+1/2} - h_m^k}{\frac{\Delta t_k}{2}} = \frac{h_m^k - h_m^{k-1}}{\Delta t^{k-1}}$$
  
$$\therefore \quad h_m^{k+1/2} = h_m^k + \frac{\Delta t^k}{2\Delta t^{k-1}} \left(h_m^k - h_m^{k-1}\right)$$
(数式 5-77)

ここで , t<sup>k</sup>=t<sup>k+1</sup>-t<sup>k</sup>

各繰り返し過程に入ってからは次式を用いる.

$$h_m^{k+1/2} = \frac{1}{2} \left( h_m^k + h_m^{k+1} \right)$$
 (数式 5-78)

なお,後退差分の場合は以下の式を用いる.

$$\frac{h_m^{k+1} - h_m^k}{\Delta t^k} = \frac{h_m^k - h_m^{k-1}}{\Delta t^{k-1}}$$
(数式 5-79)

$$\therefore \quad h_m^{k+1} = h_m^k + \frac{\Delta t^k}{\Delta t^{k-1}} \left( h_m^k - h_m^{k-1} \right)$$
(数式 5-80)

## 6. 地上部水収支モデルと地下水解析モデルの結合

地上部水収支モデルである SHER モデルと地下水解析モデルである GWAP を結合し,水循環モデルの 構築を図る(図 6-1).



図 6-1 地表流モデルと地下水モデルの結合の概念

SHER モデルは一般的に集中型モデルとして扱われる.しかし,地下水への浸透が一点集中的に行われると,GWAPの有限要素格子単位の計算を有効に活用できない.このため,GWAPの有限要素格子単位に合わせて,地上部水収支モデルも格子単位の計算を行うものとした.地上部水収支計算の結果を地下水へと伝達する様子を図 6-1 に示す.



図 6-2 表流水モデルと地下水モデルの関係

地上部水収支モデルは,GWAP 地下格子の上に組み込まれ地上格子の役割を果たす.流域に降った雨 は地上格子モデルでの一連の過程(ダム補給,取水,還元,蒸発散等)を経て,涵養水分がGWAP に入 力される.本研究目的の背景には「水資源の有効利用」があり,洪水解析の併用は必ずしも必要ない. このため,計算時間の短縮化やデータ収集・蓄積の効率化の観点から日計算をベースにした水収支計 算を行った.

地上部水収支モデルは,先に紹介したデータベースと融合したパッケージとするため,Excel ベースで開発を行った.このため,条件入力はパソコンを利用する人であれば比較的身近なインターフェースを通して実行可能である.データベースと地上部水収支機能,そして,実行形式のGWAP との計算 関係は図 6-3 のようになる.



図 6-3 地上部水収支計算, GWAP の計算順序

第2編 実流域への適用

7. 両筑平野での地下水解析

7.1. 資料収集

資料収集範囲は,水収支モデル(地表流モデル)および地下水モデルの解析範囲内とする.両筑平野 での収集範囲は次のとおりである.

地下水の流動を考慮しなければならないのは,北および東側は山地と平地の境界からであり,南側 は筑後川,西側は宝満川までと考えられる.したがって,資料収集範囲は,図7-1に示した黒点線と 2河川(筑後川,宝満川)に囲まれた地域とする.



図 7-1 両筑平野の資料収集範囲

#### 1) 収集資料概要

表 7-1 に今回収集した資料を示した.

	データ内容					
ダム	雨量,貯水位, 流入量 , 放流量	江川ダム <sup>1</sup> , 寺内ダム	H3~H16.11			
河川流量・水位	流量	金丸橋(佐田川) , 栄田橋(小石原川) , 荒瀬 , 江蘇ノ 宿 , 片ノ瀬 , 瀬ノ下(筑後川)	H3 ~ H16			
	水位	端間橋(宝満川)	\$53,H7~8			

表 7-1 既存データベース内のデータおよび収集資料

	都市用水	福岡市,甘木市(女男石) 福岡地区広域,福岡県南,佐賀東部(筑後大堰)	H3 ~ H15
河川取水	灌漑用水	各頭首工(女男石,下渕,甘木橋,本郷,上屋敷, 小田),寺内(佐田川沿岸,小石原川沿岸) <sup>2</sup>	H3 ~ H15
	導水量	寺内導水量 3	H3~H16.11
	水利権	上記の都市用水 , 灌漑用水取水堰および旧堰	
河道諸元	縦断,横断	佐田川(0.0~10.6),小石原川(-1.0~3.6)	
	堰構造物	佐田川(固定堰 16 , 可動堰 2)	
	揚水量	井戸揚水量	S57 ~ H13
地下水	地下水位	消防用井戸水位	H2 ~ H11
	井戸諸元	上記井戸	
地質柱状図	-	-	
土地利用	-	-	S51,S62,H3,H9
圃場面積	-	-	

1 江川ダムの流入・放流量は9時のデータ,その他は0時のデータ

2 三奈木導水路のうち,寺内幹線分を佐田川沿岸,福田幹線分を小石原川沿岸とする

3 日向石取水工の注水(-取水)量と寺内ダムの小石原川注水量は 1 日ずれて同じ値のため , 寺内ダムの小石原川注水 量の値を使用

2) 河川水位・流量

両筑平野における河川水位・流量の観測地点を図 7-2 に示す.流量観測地点は,小石原川・佐田川 に各1箇所,筑後川に4箇所存在している.また,宝満川では,水位観測地点が1箇所存在する.





## 3) 河川取水

両筑平野における河川取水地点(頭首工位置)および幹線水路を図 7-3 に示す.



図 7-3 頭首工および幹線水路

4) 河川断面・堰

河川断面データの存在区間および堰位置を図 7-4 に示す.



図 7-4 河川断面データの存在区間と堰位置

#### 7.2. 定性的把握

1) 地形·地質

両筑平野は筑後川中流の右岸側に展開する洪積段丘と,これを刻んだ沖積地からなっている.低位 段丘面は,標高20~50mにわたって広く分布し,ほとんどの陸田がこの面上に位置する.この段丘面 は筑後川の支川である佐田川,小石原川,草場川および宝満川の浸食によって分断されている.また, 段丘面の南縁は旧筑後川の乱流によって浸食されている.これら河川の沖積面との比高は4~5m程度 である.段丘堆積物は砂礫層からなるが,阿蘇4火砕流堆積物に対比される軽石火山灰層を挟んでお り,表層は火山灰で覆われている.さらに,草場川や曾根田川に沿って部分的に日佐面といわれる地 形面が見られる.

各河川沿いには,扇状地性の砂礫層からなる沖積層が分布している.小石原川の上流部にある女男 石から馬田にかけては,これらの沖積層が中位段丘低位面を覆っており,段丘地形は判然としない.



図 7-5 両筑平野地形・地質区分図 (出典:日本の地下水)

2) 地下水

低位段丘の堆積物は層厚 5~10mで,比抵抗値 200~700 -m程度を示す砂礫層からなる(第1層). 浅井戸は口径 1~3m程度のもので,その大半は本層内から取水している.水理定数は比湧出量 1,000 ~3,000m3/d/m,透水量係数 1,000~3,000m2/d,貯留係数n×10<sup>-1</sup>のものが約半数を占め良好な帯水層 であることを示している 段丘堆積物の下位にはあまり連続性の良くない粘土層を挟む砂礫層がある. 層厚はほぼ 150m程度であるが,筑後川沿いでは 300m程度となっている.この堆積物は比抵抗値 100~ 400 -mを示す第2層と,70~120 -mを示す第3層に区分できる.第2層と第3層の地下水は被圧地 下水であるが,湧出能力は第1層の不圧地下水に比してかなり劣っている.

不圧地下水位の季節変化の例を図 7-6 に示す.降水量の多い6~7月にかけて地下水位が高く,降水量の少ない11~12月にかけて低くなるといった普通のパターンを示す.また,小石原川は上流部において河床堆積物が洪積段丘面を覆っていて,そこを通して洪積段丘の地下水を涵養している.その他の河川はすべて排水河川となっている.

不圧地下水面勾配は,上流側から下流側にかけて 1/300~1/350 と緩くなるが,段丘末端部で再び 急勾配となり,数m<sup>3</sup>/sに及ぶ湧水群が見られるところがある.



図 7-6 地下水面図 (出典:日本の地下水)

- 7.3. モデル作成
- 1) 解析メッシュ

山地部は,評価地点(ダム地点,取水地点)ごとに流域を分割した.また,平地部については,地下 水コンター図を参考に,地下水流動の主要な方向が有限要素法メッシュの境界線と直交するように, また,河川と周辺地下水との局所的な関係が再現されるように配慮して設定することとした.その結 果,南西方向に拡散する放射状の形状を基本構造とし,主要河道周辺では河川に向かったあるいは河 川から拡散する形の地下水位差が再現できるように比較的詳細なメッシュが必要なこととなった.



図 7-7 両筑平野の解析メッシュ

2) 時系列データ

a.雨量

流域内の雨量データとしては,江川ダムおよび寺内ダムの日流量がある.しかしながら,今回のモ デルは,全体としては日単位の計算を行っているが,表層土壌部分のみ時間単位で計算を行っている ため,時間単位の雨量データが必要となる.そこで,アメダス甘木の時間雨量データを用いた.



衣(-2 午间阵小重の几戦									
	江川ダム	寺内ダム	アメダス甘木						
H3	2344	2165	2087						
H4	1788	1591	1531						
H5	2753	2572	2491						
H6	966	875	981						
H7	1917	1979	2040						
H8	1645	1472	1650						
H9	2756	2359	2323						
H10	1989	1903	1973						
H11	2151	2047	1991						
H12	1801	1855	1693						
H13	1964	1954	1867						
H14	1736	1637	1660						
H15	2042	2193	1984						
H16	2102 <sup>*</sup>	1959 <sup>*</sup>	2007						

表 7-2 年間降水量の比較

#### 図 7-8 雨量観測所位置



#### b.蒸発散

蒸発散の計算に必要となる可能蒸発散量については,アメダス甘木の日気温データからハーモン式 を用いて算定した.





図 7-11 可能蒸発散量(平成 16 年)

c.農業用水量

農業用水量は,河川取水量および井戸揚水量を各圃場に分配し,圃場内では均一に与えることとした.圃場については,水収支データベースの区域を参考に,河川,幹線水路などから,図7-12のように設定した.河川取水量の分配については,頭首工と圃場の関係を表7-3のように設定し,1つの頭首工が複数の圃場に対応する場合は,取水量を圃場の面積で案分することとした.なお,井堰については,計画合口をもとに各頭首工での合計の水利権量を取水量とみなし,同様に圃場に分配した.井戸揚水量については,地点データのない -122, -137, -9を除く井戸について,圃場ごとに年間の総揚水量を集計した.表7-5には,こうして作成した圃場ごとの取水および揚水量の年間値を示した.この値を各圃場内の水田面積で除した値が,水田ごとに与える農業用水量であるが,昨年度の水収支計算においては,次のように還元率を45%に設定し還元水量を算出し,表7-6に示したマトリクスの比率で各河川に放流されているとしている.

(還元率の考え方)

・農業用水として取水された水量のうち,稲の生育に必要な純水量は取水量の 50%で残りの 50%は 水路維持用水である

・水路維持用水の10%は水路における損失水量となる

そこで,この考え方にならい,還元率を 45%に設定し,残りの 55%分が常に水田上にある農業用水 量とする.ただし,井戸揚水分については還元先を設定していないため,すべて農業用水分とする. まとめると,農業用水量は次のようになる.

農業用水量 = (日ごとの頭首工取水量 + 井堰取水量) × 0.55 + 井戸揚水量

こうして求めた各圃場ごとの農業用水量について,面積で除し,高にした値(減水深に相当)を表 7-7 および図 7-13 に示した.ここで,灌漑期間は 5/16~9/28 の 136 日間とした.



図 7-12 圃場の設定

No.	圃場名	面積(ha)	頭首工
1	寺内	465	寺内1
2	寺内南	232	寺内1
3	福田	211	寺内2
4	上屋敷	222	上屋敷
5	小田	222	小田
6	女男石	197	女男石
7	下渕	186	下渕
8	甘木 ( 左岸 )	244	甘木
9	甘木 ( 右岸 )	352	甘木
10	本郷	285	本郷
11	夜須(三輪)	237	女男石
12	夜須(夜須)	715	女男石
13	三輪	220	女男石
14	草葉川	344	女男石
15	立石(3号)	169	女男石
16	立石(1号)	216	女男石
17	立石(6号)	127	女男石
18	乙隅	150	乙隅

# 表 7-3 圃場と頭首工の関係

# 表 7-4 井堰の水利権量

河川	計画合口	井堰名	水利権	計
			m <sup>3</sup> /s	m <sup>3</sup> /s
小石原川	女男石	-	-	-
	下渕	香田	0.013	0.033
		新	0	
		日髭	0.001	
		口井	0.003	
		上八仲田	0.007	
	甘木	花園	0.003	0 459
		重	0.026	0.100
		向川原	0.003	
		中川原	0.019	
		下川原	0.009	
		千反川原	0.056	
		松ノ木	0.015	
		泉田第一 英文	0.022	
		洛谷	0.022	
		<b>宋田</b>	0.007	
		上マ油	0.060	
		エール	0.007	
		下り松	0.000	
		高良	0.021	
		東鍛田	0.011	
	本郷	大坪	0.06	0.118
		草場	0.058	
佐田川	寺内	寺内	0.505	0.505
	上厔煭	四日代	0.021	0.305
		生態	0 116	
		上川原 松木	0.110	
		入雨	0 004	
		相窪	0.091	
		下古賀	0.039	
		宮田	0	
		尾辺田	0.013	
		金の手	0.021	
	小田	白鳥	0.071	0.147
		二川	0.076	

圃場名 面積 面積 井堰 H6 H7 H9 H10 No H8 取水 揚水 取水 揚水 取水 揚水 取水 揚水 取水 揚水 (ha) (ha) 千m<sup>3</sup>/年 12338.8 1532.9 487 1747.9 7286.6 2020.4 10287.4 559.7 11112.0 396.5 1302.4 12168.7 寺内 465 寺内南 232 238 872.1 3635.4 700.5 5132.6 267.8 5544.0 17.5 6156.2 215.1 6071.3 337.5 2 3 福田 211 129 3314.0 2610.0 76.3 3795.0 4.2 673.0 10.0 1129.0 26.1 2216.0 128.6 上屋敷 222 332 3583.9 1404.8 869.8 2818.8 212.6 3355.7 66.2 2819.9 229.9 3294.6 208.3 4 5 小田 222 161 1727.3 1772.2 1620.6 2844.1 1422.7 3117.2 26.6 2977.9 20.6 2392.0 0.0 女男石 6 197 161 0.0 1455.0 0.0 1840.8 0.0 2105.4 0.0 2402.9 0.0 2105.4 0.0 7 下渕 186 105 387.8 2376.9 6.7 2015.2 0.5 1616.6 0.5 2898.2 31.7 3265.7 40.2 甘木(左岸) 244 406 2208.0 974.9 709.7 1446.5 611.7 2009.3 364.0 2267.2 741.1 1681.0 553.4 8 甘木(右岸) 9 352 415 3185.4 1406.4 1048.1 2086.7 590.1 2898.6 213.5 3270.8 865.9 2425.1 963.8 本郷 285 486 1386.5 0.0 425.6 0.0 51.4 3237.4 25.8 3101.7 82.1 1866.6 94.8 10 夜須(三輪) 237 1750.4 2214.5 2532.9 2890.8 0.0 2532.8 310 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 11 夜須(夜須) 715 875 0.0 5280.7 854.8 6680.9 559.6 7641.5 638.2 8721.0 300.8 7641.3 235.8 12 13 三輪 220 252 0.0 1624.8 95.1 2055.7 121.2 2351.2 123.9 2683.4 160.8 2351.2 235.5 草葉川 14 344 325 0.0 2540.7 72.7 3214.3 60.8 3676.5 62.8 4195.9 47.3 3676.4 84.2 15 立石(3号) 169 149 0.0 1248.2 271.2 1579.1 207.3 1806.2 131.5 2061.3 274.9 1806.1 79.0 16 立石(1号) 216 341 0.0 1595.3 353.7 2018.3 312.8 2308.5 269.3 2634.6 296.4 2308.4 175.9 立石(6号) 17 127 135 0.0 938.0 1093.5 1186.7 58.2 1357.3 43.7 1549.1 138.8 1357.3 177.2 7.隅 150 174 0.0 0.0 52.4 0.0 12.9 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0

表 7-5 圃場ごとの取水および揚水量(その1)

表 7-5 圃場ごとの取水および揚水量(その2)

No.	圃場名	面積	面積	井堰	H	H11		H12		H13		H14		H15	
		(ha)	(ha)	(千m <sup>3</sup> /年)	取水	揚水	取水	揚水	取水	揚水	取水	揚水	取水	揚水	
1	寺内	465	487	1747.9	11358.8	917.0	11394.8	563.0	4193.6	396.4	3332.4	396.4	4357.7	396.363	
2	寺内南	232	238	872.1	5667.2	416.3	5685.2	119.3	2092.3	174.7	1662.6	174.7	2174.2	174.661	
3	福田	211	129	3314.0	3695.0	40.1	3794.0	40.3	2610.5	0.0	2220.5	0.0	2817.7	0	
4	上屋敷	222	332	3583.9	2999.4	159.4	2689.0	0.0	3023.6	0.0	2469.5	0.0	2079.8	0	
5	小田	222	161	1727.3	2834.0	0.0	2958.1	1.6	2829.0	4.0	2485.0	4.0	1788.3	3.974	
6	女男石	197	161	0.0	1872.9	0.0	1899.9	0.0	1880.2	0.0	1721.2	0.0	2146.5	0	
7	下渕	186	105	387.8	1647.7	21.5	1782.9	0.0	3684.3	0.0	3341.3	0.0	2367.7	0	
8	甘木(左岸)	244	406	2208.0	1492.1	432.9	1816.0	0.0	1938.4	0.0	1772.7	0.0	1622.0	0	
9	甘木(右岸)	352	415	3185.4	2152.5	879.9	2619.8	406.2	2796.4	405.8	2557.3	405.8	2340.0	405.794	
10	本郷	285	486	1386.5	3075.5	135.1	2873.9	722.3	2441.8	130.8	2484.4	130.8	2117.4	130.773	
11	夜須(三輪)	237	310	0.0	2253.1	0.0	2285.6	0.0	2261.9	0.0	2070.6	0.0	2582.4	0	
12	夜須(夜須)	715	875	0.0	6797.4	110.9	6895.5	43.9	6823.9	121.0	6246.9	121.0	7790.7	120.999	
13	三輪	220	252	0.0	2091.5	149.3	2121.7	125.4	2099.7	85.7	1922.1	85.7	2397.1	85.65	
14	草葉川	344	325	0.0	3270.4	69.6	3317.5	91.8	3283.1	73.5	3005.5	73.5	3748.2	73.527	
15	立石(3号)	169	149	0.0	1606.7	91.3	1629.8	151.1	1612.9	44.2	1476.5	44.2	1841.4	44.204	
16	立石(1号)	216	341	0.0	2053.5	228.7	2083.1	186.3	2061.5	87.1	1887.2	87.1	2353.5	87.087	
17	立石(6号)	127	135	0.0	1207.4	86.3	1224.8	33.1	1212.1	60.6	1109.6	60.6	1383.8	60.6	
18	乙隅	150	174	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	

表 7-6 農業用水還元先マトリクス

水収支上の下流側河道名	灌漑水路1	灌漑水路2	灌漑水路3	灌漑水路4	灌漑水路5	灌漑水路6	灌漑水路7	灌漑水路8	灌漑水路9
堰	小石原川4	小石原川3	小石原川2	小石原川1	佐田川1	本川4	二又川2	本川5	本川2
女男石									1
下渕		0.7	0.2				0.1		
甘木			0.8	0.1			0.1		
本郷				0.9				0.1	
寺内1(佐田川沿岸)					0.2	0.3	0.5		
寺内2(小石川沿岸)							1		
上屋敷						0.5	0.2	0.3	
小田						0.5	0.3	0.2	
井堰1(女男石)	0.7	0.3							
井堰 2 (下渕)		0.7	0.3						
井堰 3 (甘木)			0.7	0.3					
井堰4(本郷)				0.7			0.3		
井堰 5 (寺内)					0.7	0.3			
井堰 6 (上屋敷)						0.7	0.3		
井堰7(小田)							0.7	0.3	

No.	圃場名	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
1	寺内	10.5	10.8	11.3	13.7	13.9	12.3	11.8	5.5	4.8	5.7
2	寺内南	9.8	11.0	11.0	12.6	12.8	12.4	11.5	5.6	4.8	5.7
3	福田	19.0	22.3	12.6	14.1	18.1	22.2	22.5	18.6	17.4	19.2
4	上屋敷	8.0	8.3	8.6	8.3	8.8	8.4	7.6	8.1	7.4	6.9
5	小田	16.2	18.0	12.3	11.9	10.3	11.4	11.8	11.4	10.6	8.8
6	女男石	3.7	4.6	5.3	6.1	5.3	4.7	4.8	4.7	4.3	5.4
7	下渕	10.7	9.3	7.7	12.9	14.4	8.0	8.4	15.7	14.4	10.6
8	甘木(左岸)	4.5	4.7	4.9	5.8	4.9	4.5	4.0	4.1	4.0	3.8
9	甘木(右岸)	6.3	6.2	6.3	7.8	7.2	6.8	6.4	6.5	6.3	6.1
10	本郷	1.8	1.2	3.9	3.9	2.9	3.9	4.6	3.4	3.4	3.1
11	夜須(三輪)	2.3	2.9	3.3	3.8	3.3	2.9	3.0	3.0	2.7	3.4
12	夜須(夜須)	3.2	3.6	4.1	4.3	3.7	3.2	3.2	3.3	3.0	3.7
13	三輪	2.9	3.6	4.1	4.8	4.5	3.8	3.8	3.6	3.3	4.1
14	草葉川	3.3	4.1	4.7	5.3	4.8	4.2	4.3	4.3	3.9	4.8
15	立石(3号)	4.7	5.3	5.5	6.9	5.3	4.8	5.2	4.6	4.2	5.2
16	立石(1号)	2.7	3.1	3.3	3.8	3.1	2.9	2.9	2.6	2.4	3.0
17	立石(6号)	8.7	3.9	4.3	5.4	5.0	4.1	3.8	4.0	3.6	4.5
18	乙隅	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表 7-7 圃場ごとの農業用水量の平均値(mm/日)



図 7-13 農業用水量(平成8年)

## 3) 流域情報の整理

収集した流域情報をもとに流域モデルを作成した.解析に必要となるデータは,GIS 上でモデル要素毎に集計した.図 7-14~図 7-18 には,GIS で整理した流域情報を示した.



図 7-14 両筑平野 標高



図 7-15 両筑平野 土地利用



図 7-16 両筑平野 勾配







図 7-18 両筑平野 地図画像




7.4. モデル精度検証

両筑平野を対象とした検証計算では下記のような結果となった.

•河川流量と地下水位の再現計算のグラフをみると,豊水期と渇水期の間の比較的長期の地下水位 変動は良好に再現できており,当該流域の長期的な水循環変動機構はこのモデルで再現できている.

•一方,大きな降雨イベントに対する再現性の点では,地下水位の変動幅が十分に再現されない傾向にあり,帯水層の貯留係数に関する調整が必要である.

•灌漑期間中の地下水位変動については,明らかに揚水ポンプの稼働タイミングに左右されている 部分があり,これらについてはモデル内で同様な揚水パターンを設定しない限り再現は困難であるが, 日々の揚水量データが得られないので,課題として残る.



図 7-20 ハイドロ比較(栄田橋,小石原川)



図 7-21 ハイドロ比較(金丸橋,佐田川)









図 7-22 地下水位の比較



図 7-23 地下水コンター比較(平成8年)

河川堰および灌漑用水が地下水に与える影響

両筑平野の地下水位観測結果を見ると,河川近くの井戸と河川と離れている井戸では反応が違い, 河川近くでは,大きな降雨後,河川への流出により速やかに元の水位に戻っているのに対し,河川と 離れている井戸は,大きな降雨後も戻り方が遅く,灌漑期は地下水位が高くなっている(図 7-24 図 7-25).この灌漑期における地下水位上昇が,堰使用による河川水位の上昇によるものか,灌漑用水 によるものかについて検証するため,次の2ケースの計算を行った.

- (ケース1) 灌漑用水を0とする
- (ケース2) 堰の使用により,灌漑期の河川水深を最低1mとする



図 7-24 地下水位観測結果(国土交通省, 左:河川に近い, 右:河川から離れている)



図 7-25 地下水位観測結果(甘木市,左:河川に近い,右:河川から離れている)



図 7-26 計算結果(ケース1)



ケース1の場合は,両井戸とも夏場の地下水位が再現されない.ケース2の場合は,河川近くの 134の地下水位の再現性はよくなるが,河川から離れているR14への影響は小さい.これより,灌漑 期の地下水位上昇は,河川近くでは堰および灌漑用水の複合的影響,河川から離れた場所では,灌漑 用水による影響と考えられる. 8. 番匠川流域での地下水解析

8.1. 資料収集

解析範囲は以下を考慮して決定する.

・観測水位または堰を境界条件とする

・番匠橋付近までは,浅層と深層帯水層は一つの不圧帯水層と考えられるが,番匠橋より下流で不圧 帯水層と被圧帯水層に分かれる.

・ 佐伯市の上岡揚水井により地下水が塩水化しており,下流域の地下水流動は複雑となる.

・同時流量観測によると山梨子橋付近で伏流し,番匠橋下流付近で流出している.



図 8-1 番匠川中流~下流模式図



これらから,地下水解析範囲を図 8-2 のように設定する.なお,下流端境界条件としては,塩水の浸入が見られるため,上流からの淡水の流れは塩水でせき止められるとして,流出入なしとする.

図 8-2 地下水解析範囲(オレンジ部分)

## 1) 収集資料概要

収集した資料の概要を**表 8-1**に示す.

分類	データ	出所	地点 , 期間等
時系列	雨量(日)	佐伯河川国道事務所	因尾・・・S52~H16
データ			佐伯・・・S52~H16
			宇藤木・・・S52~H16
			直川・・・S52~H16
			青山・・・S52~H16
	雨量(時)	アメダス(気象庁)	佐伯・・・S52~H16
	気温	アメダス(気象庁)	佐伯・・・S52.3~H16
	河川水位(日)	佐伯河川国道事務所	小川橋・・・S53~H16
			白山・・・S52~S57, S63~H16
			番匠橋・・・S52~H16
			長瀬橋・・・S52~S54, H3~H16
			灘・・・S52~S54, S56~H16
			間庭橋・・・S52~H16
			蕨野橋・・・S52~H16
			堅田橋・・・S52~H16
	河川流量(日)	佐伯河川国道事務所	小川橋・・・S57~H15
			番匠橋・・・S52~H15(ただし S62
			除)
			間庭橋・・・S57~H15
			蕨野橋・・・H6~H15
			堅田橋・・・S55~H15
	地下水位(日)	佐伯河川国道事務所	切畑 (浅 , 深 )・・・S53~H16
			上岡 (浅,深)・・・\$56~H16
	地下水位(月)	番匠川水資源保全及び活用計画	佐伯市上岡取水井戸(第1~第9)
		検討業務報告書 H10.3	・・・S56 ~ H8
		(佐伯河川国道事務所)	

表 8-1 収集資料(その1)

地下水揚水量	佐伯河川国道事務所	佐伯市上岡浄水場・・・S61~H8	
		およびH13~H16	
ダム流入・放流	佐伯河川国道事務所	床木ダム・・・S63~H16	
量・貯水位			

分類	データ	出所	地点 , 期間等	
流域	行政界	数値地図 25000(行政界・海岸線)	佐伯市(佐伯市および周辺 8 町	
データ		(国土地理院)	村はH17.3合併)	
	標高	50m メッシュ標高(国土地理院)	番匠川流域内	
	土地利用	国土数値情報 土地利用メッシュ	番匠川流域内	
		(国土交通省)		
	不浸透域	数値地図 25000 ( 空間データ基盤 )	番匠川流域内	
	(道路・鉄道)			
河川	河川縦・横断図	佐伯河川国道事務所	-1k~19k(0.2k ピッチ)・・・H14	
データ			S57,S62,H5,H9,H14 重ね合わせ	
			図	
	河川平面図	佐伯河川国道事務所		
	河川構造物	佐伯河川国道事務所	固定堰・床止台帳(直轄区間)	
	取水量	正常流量検討資料	直轄区間および指定区間	
		(佐伯河川国道事務所)		
	還元量 ( 排水量 )	佐伯河川国道事務所		
	同時流量観測	佐伯河川国道事務所	山梨子橋~樫野・・・S52~H4	
	旧河道状況	九州地方の古地理に関する調査(九	番匠川水系	
		州地方整備局)		
水理	帯水層構造	番匠川水資源保全及び活用計画検		
地質		討業務報告書 H10.3		
データ		(佐伯河川国道事務所)		

表 8-2 収集資料(その2)

2) 時系列データ

(1)雨量

雨量データについては,アメダス佐伯の時間データおよび国土交通省観測地点での日データを収 集・整理した.各観測所の年雨量を表 8-3 および図 8-3 に示す.また,各観測所間の日雨量の相関 関係について表 8-4 に示した.表より,国土交通省の観測所間の相関は高いことがわかる.アメダス 観測所との相関については,全年で見ると低くなっているが,各年の相関を見ると1996 年を境に相関 が良くなっている(表 8-5).これは,1996 年から日雨量算出の日界が0時になったためで,それ以前 は9時であったためと考えられる(アメダス日雨量の算出は,全年,0時).

解析では,国土交通省観測の5地点で流域をティーセン分割し,それぞれの観測地点の時間雨量として次式で変換した値を用いることとする.

(国土交通省各観測地点の時間雨量データ) = a × (アメダス時間雨量データ) + b ただし,係数 a と b は,1996 年~2004 年の日雨量関係から得られた平均値





地点年	因尾	佐伯	宇藤木	直川	青山	アメダス佐伯
1977	1851.4	1902	2097.4	1876	2252.6	1865
1978	1544.4	1577.4	1657.2	1803.2	1874.4	1494
1979	2458.3	2581.9	2761.8	2989.4	3078.6	2311
1980	2241.9	2994.6	3263.1	3023.5	3009.8	2782
1981	1596	1741	1512.6	1612.8	1748.9	1570
1982	2582.7	2613.9	2751.4	2621.1	3307.6	2454
1983	1611.9	2070.5	1871.3	1806.1	2227.1	1875
1984	1706.3	2018.8	1788.6	1940.7	2382.7	1718
1985	2042.9	1981.5	1971.2	1999.4	2437.723	1810
1986	1529.4	1800.7	1463.2	1583.2	1872	1565
1987	2296	2184	2405.2	2300.5	2741.2	2136
1988	1719.9	1706	1782.2	1743.7	2159.8	1622
1989	2153.4	2407	2176.6	2414	2713.1	2305
1990	2247.4	2526	2311	2672.1	2798.8	2424
1991	2269.2	2126	2529.8	2362.7	2532.6	2126
1992	1925.4	1897	2148.7	2276.7	2668.3	1848
1993	3146.5	3184	2998.5	3344	3420.5	3068
1994	1244.5	1252	1300.5	1324	1512.5	1221
1995	1681	1726	1675.5	1562	1847.5	1626
1996	1585	1488	1702	1509	1622	1412
1997	2124	1822	2199	2001	2037	1755
1998	2486	2419	2472	2453	2771	2400
1999	3269	3020	3255	3199	3604	2548
2000	1840	1906	2212	2051	2215	1872
2001	1776	2032	1888	2003	2193	2108
2002	1933	1519	2078	1856	1691	1595
2003	2551	3051	2699	2934	3293	2777
2004	3202	2816	3231	3292	3229	2747

表 8-3 各観測所の年雨量





直川







図 8-4 年雨量

	因尾	佐伯	宇藤木	直川	青山	アメダス佐伯
因尾	1.00					
佐伯	0.86	1.00				
宇藤木	0.93	0.88	1.00			
直川	0.93	0.92	0.92	1.00		
青山	0.85	0.94	0.87	0.91	1.00	
アメダス佐伯	0.75	0.81	0.76	0.78	0.78	1.00

表 8-4 各観測所間の相関係数(1977~2004)

表 8-5 アメダス佐伯と各観測所の年別相関係数 

年	因尾	佐伯	宇藤木	直川	青山
1977	0.60	0.67	0.61	0.57	0.64
1978	0.71	0.77	0.73	0.74	0.72
1979	0.77	0.80	0.75	0.81	0.83
1980	0.58	0.65	0.62	0.62	0.64
1981	0.60	0.47	0.73	0.52	0.48
1982	0.60	0.75	0.71	0.68	0.72
1983	0.66	0.76	0.68	0.75	0.79
1984	0.53	0.66	0.53	0.58	0.61
1985	0.73	0.81	0.65	0.78	0.77
1986	0.56	0.62	0.55	0.52	0.54
1987	0.68	0.78	0.79	0.77	0.79
1988	0.83	0.88	0.83	0.77	0.83
1989	0.64	0.71	0.63	0.72	0.65
1990	0.72	0.76	0.76	0.73	0.63
1991	0.74	0.78	0.73	0.78	0.72
1992	0.72	0.76	0.73	0.68	0.67
1993	0.81	0.76	0.75	0.77	0.81
1994	0.62	0.67	0.65	0.56	0.57
1995	0.70	0.74	0.71	0.71	0.73
1996	0.90	0.99	0.92	0.93	0.94
1997	0.96	1.00	0.94	0.97	0.97
1998	0.91	0.99	0.89	0.92	0.97
1999	0.80	0.85	0.81	0.83	0.89
2000	0.85	0.99	0.78	0.90	0.93
2001	0.93	0.99	0.95	0.93	0.96
2002	0.75	1.00	0.78	0.81	0.91
2003	0.84	0.90	0.85	0.85	0.87
2004	0.94	1.00	0.96	0.97	0.97

表 8-6 変換係数

係数	因尾	佐伯	宇藤木	直川	青山
а	1.047	1.024	0.975	1.033	1.087
b	0.569	0.122	0.657	0.433	0.515

(2)気温

気温は,アメダス佐伯の日気温データを用いる.



図 8-5 日平均気温(アメダス佐伯)

(3)河川水位

流域内の水位観測所8箇所について,日水位データを整理した.



図 8-6 水位観測所



図 8-7 河川水位(その1)









図 8-8 河川水位(その2)

(4)河川流量





図 8-9 日流量ハイドロ(その1)



図 8-10 日流量八イドロ(その2)

(5)地下水位

国土交通省の地下水観測所2箇所の日地下水位および佐伯市上岡揚水井の地下水位(ポンプ運転水位,自然水位)のデータを収集,整理した.上岡揚水井の地下水位(運転水位)は,月1~2回程度計測 されているものであり,月平均値ではない.



図 8-11 地下水観測位置(国土交通省)





図 8-12 地下水位(国土交通省)



図 8-13 佐伯市上岡揚水井位置



図 8-14 上岡揚水井の地下水位

(6)地下水揚水量

S61~H8 までは, 佐伯市揚水井ごとの揚水量データはなく, 各揚水井が接続されている第 1~第 3 浄水池への送水量データのみである. 各浄水池への揚水井の接続状況は以下の通りである. 図 8-15 に浄水場ごとの揚水量を示す.

第1浄水場 ・・・ 1,2,新3,旧3 号 第2浄水場 ・・・ 6,7,9 号 第3浄水場 ・・・ 4,5号



図 8-15 浄水場ごとの揚水量(S61~H8)

また, 揚水量データが入手できた S61~H8 および H13~H16 の揚水量の合計を図 8-16 に示す.図より, 経年的にはほぼ一定の揚水量と見られる.



図 8-16 佐伯市の揚水量合計

(7)ダム貯水位・流入量・放流量

床木ダムについて,貯水位,流入量,放流を収集・整理した.



図 8-17 床木ダム貯水位・流入量・放流量

3) 流域データ

(1)行政界

平成 17 年 3 月 3 日, 佐伯市および南郡 8 か町村(上浦町,弥生町,本匠村,宇目町,直川村,鶴見町,米水津村,蒲江町)が合併し,新「佐伯市」となっている.図 8-18 には,旧市町村界を示した.



図 8-18 市町村界

(2)標高



標高は,50m メッシュ標高(1 メッシュ 約50m 四方)を用いた.

(3)土地利用

土地利用は,国土数値情報の平成9年土地利用メッシュ(1メッシュ 約100m四方)を用いた.





(4)不浸透域

不浸透域のうち,道路・鉄道については,空間データ基盤の情報を用いる.



図 8-21 流域内の道路・鉄道

4) 河川データ

(1)河道縦・横断

河道横断図については,本川は0.2k ピッチで-1kから19kまでの数値データがある.5kより上流について,1kごとの横断図を示すと,図8-23~図8-25のようである.



図 8-22 距離標



図 8-23 河道横断(その1)



図 8-24 河道横断(その2)



図 8-25 河道横断(その3)

また,過去の横断図を重ね合わせた次頁のように整理されている.



## (2)河川構造物

流域内の堰・頭首工および樋門・樋管の位置を図 8-26 に示した.



図 8-26 堰, 樋門·樋管

(3)取水量

直轄区間については,取水場所と代かき期,かんがい期,非かんがい期別の許可水利権量データがある.しかし,指定区間については,慣行水利権があり,取水場所が特定できず,期別の実測と思われる取水量データがある.



図 8-27 取水量(代かき期)



図 8-28 取水量(かんがい期)


図 8-29 取水量(非かんがい期)

(4)還元量

農水還元量については,平成7年に鬼ヶ瀬水路,常磐水路において,かんがい期,非かんがい期別 に調査が行われている.調査結果によれば,還元率は,かんがい期45%,非かんがい期95%となってい る.ただし,鬼ヶ瀬井堰および常磐井堰からの取水については,還元場所が複数存在するため,図8-30, 図8-31のように還元率を割り振る.



図 8-30 還元場所と還元率(かんがい期)



図 8-31 還元場所と還元率(非かんがい期)

## (5)同時流量観測

昭和 52 年から平成 4 年にかけて,同時流量観測が表 8-7,表 8-8 のように行われている.

年度	かんがい期	非かんがい期	観測区間
昭和 52 年		3	番匠橋~潮止堰
昭和 53 年	2	3	"
昭和 56 年	1	1	"
昭和 57 年	1		"
昭和 58 年	1	5	"
昭和 59 年		7	"
昭和 60 年	2	5	"
昭和 61 年		10	"
平成2年	1	1	山梨子~潮止堰
平成3年		1	"
平成 4 年		1	"
計	8	37	"

表 8-7 同時流量観測概要

## 表 8-8 同時流量観測結果

期別	番号	年度	月	日	山梨子	山梨子 樋門	小田 樋門	井崎川	小田井 堰上流	小田井 堰取水	小田井 堰下流	番匠橋	炭崎川	鉄道橋	小田 樋門	堤内川	樫野
灌漑期	1 2 3 4 5 6 7 8	53 53 56 57 58 60 60 2	7 8 6 8 8 8 8	11 28 25 9 8 2 6 16	0.55	0.03	0.01	0.28	3.32	-0.44	0.63	1.95 1.87 1.27 1.69 1.04 1.40 1.52 1.52	0.04	1.97	0.02 0.02 0.00	0.21 0.12 0.14 0.12 0.12 0.09 0.11 0.03	- - - - - - 2.43
非灌溉期	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 100 111 123 144 155 166 17 17 18 19 200 211 122 233 244 255 266 277 288 29 9 30 311 322 333 34 355 336 6 37	5225253355665885588558855855995995995995995995995995	$\begin{array}{c} 11\\ 12\\ 12\\ 5\\ 5\\ 101\\ 11\\ 12\\ 2\\ 2\\ 3\\ 11\\ 11\\ 12\\ 2\\ 2\\ 3\\ 11\\ 11\\ 12\\ 12\\ 1\\ 1\\ 1\\ 12\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2\\ 2$	$\begin{array}{r} 9\\ 13\\ 26\\ 218\\ 30\\ 251\\ 8\\ 29\\ 13\\ 28\\ 6\\ 30\\ 3\\ 18\\ 27\\ 5\\ 16\\ 12\\ 230\\ 5\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 225\\ 26\\ 19\\ 201\\ 201\\ 201\\ 201\\ 201\\ 201\\ 201\\ 201$	1.12 0.21	0.00	0.00	0.61 0.02	1.34 0.31	-0.05 0.00	1.66 0.998	$\begin{array}{c} 1.52\\ 1.37\\ 0.91\\ 0.89\\ 1.15\\ 1.76\\ 1.89\\ 2.24\\ 1.55\\ 0.99\\ 0.87\\ 0.72\\ 0.72\\ 0.72\\ 0.72\\ 0.71\\ 1.00\\ 0.92\\ 1.79\\ 0.86\\ 1.47\\ 1.98\\ 1.24\\ 1.55\\ 0.96\\ 1.38\\ 0.71\\ 0.96\\ 1.38\\ 0.71\\ 0.96\\ 1.38\\ 1.24\\ 1.55\\ 0.96\\ 1.38\\ 1.44\\ 1.40\\ 0.89\\ 1.85\\ 1.66\\ 1.56\\$	0.02 0.02 0.02 0.02 0.01 0.01 0.01 0.01	2.44 1.06	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.0	$\begin{array}{c} 0.04\\ 0.03\\ 0.03\\ 0.03\\ 0.09\\ 0.28\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.02\\ 0.01\\ 0.04\\ 0.04\\ 0.04\\ 0.04\\ 0.05\\ 0.05\\ 0.07\\ 0.03\\ 0.04\\ 0.06\\$	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -



(6)旧河道

「九州地方の古地理に関する調査 古の文化と豊かな自然」(平成14年 九州地方整備局)によれば,流域内の旧河道および地形状況は図 8-32のようである.



図 8-32 旧河道(上:流域全体,下:四角部分を拡大)

旧河道について

「平坦な平野において旧河道を発見するには空中写真,古地図,文献,表層地質図等を利用するわけであるが,空中写真の利用が最も便利であり,これによってまず旧河道の位置を明示し,その後資料で時代を確定する方法が最もよい.いずれの場合も現地調査による最終点検は必要である.

空中写真ではとくに米極東空軍地図局(USAMSFE)が戦後(1946~50年)撮影したものが便利である.

旧河道の状態は,浸食作用の卓越している河川と堆積作用の卓越している河川とでは異なる.浸食 作用卓越河川では旧河道は周辺平野より低く,数メートルから数十センチメートル掘り込んでおり, 帯状に続く.

また河道が変遷して,表流水がなくなっても,地下水は数十年あるいは数百年にわたって流れ続け るので,地下水位が浅く,空中写真では黒ずんでみえる.

一方,堆積作用が卓越している河川の旧河道は,河道に沿って自然堤防が発達しているので,空中 写真ではこの自然堤防が白く移る.さらに自然堤防中に澪が認められるのが普通である.澪がない場 合でも自然堤防の分布だけから旧河道を見つけることが可能である.

日本の平野の地形は縄文海進以降に形成されたものであるので,最も古い河道でも 4,000~6,000 年前のものであるが,現在地表に明瞭に認められる旧河道は中世以降のものが多い.

旧河道の認定は前述の地形学的方法に地図学的方法や歴史学的方法を加える.地図では明治23~24 年頃作成された迅速図から,その時代の旧河道を正確に復元できる.

それ以前の旧河道については,まず地形学的方法で旧河道の分布を確認しておき,文献,絵図等を 利用して,それぞれの旧河道の存在した時代を推定する.」

(河道変遷特性に関する研究 (財)河川環境管理財団 平成10年)

5) 水理地質データ

(1)帯水層構造

四万十層群の基盤上に,番匠橋より上流の沖積低地には砂礫(洪積層),下流は細粒砂~シルト(沖 積層)が分布している.帯水層の厚さは,上流で30~40m,下流で10~20mである.



(2)透水係数

深層(被圧)の透水係数は概ね 10<sup>-1</sup>~100cm/sである.

#### 8.2. データベース化

収集した資料については,昨年度作成した小石原川・佐田川流域データベースと同様にデータベース化を行った.データベースに登録した項目およびファイル名を表 8-9 に示す.次ページ以降には,データベースの画面(Excel)を示した.

データ項目	ファイル名
ダム	床木ダム貯水位.xls
	床木ダム放流量.xls
	床木ダム流入量.xls
雨量	アメダス佐伯.xls
	因尾.xls
	宇藤木.xls
	佐伯.xls
	青山.xls
	直川.xls
気温	アメダス佐伯.xls
横断	横断.xls
堰	堰台帳調書.xls
	構造図.bmp,平面図.bmp
	01 興人潮止堰
	02 高畠堰
	03 小田堰
	04 鬼ヶ瀬堰
	05 常磐堰
	06長野津留堰
	07 仏の津留堰
	08 浦木堰
	09 新洞堰
	10 新洞堰
	11 岩井戸堰
地下水位	上岡(深井戸).xls
	上岡(浅井戸).xls
	切畑(深井戸).xls
	切畑(浅井戸).xls

表 8-9 データベースに登録したファイル

水位	間庭橋.xls
	堅田橋 xls
	小川橋.xls
	長瀬橋.xls
	灘.xls
	白山.xIs
	番匠橋.xls
	蕨野橋.xls
流量	間庭橋.xls
	堅田橋.xls
	小川橋.xls
	番匠橋.xls
	蕨野橋.xls

8.3. 定性的把握

1) 観測結果

番匠橋での河川水位と切畑の地下水位を比較すると図 8-33のようになる.

全年にわたり,河川水位と地下水位は同様の変動を示している.S60年(1985年)までは,地下水位 が約1m高い状態となっているが,その後H8年(1996年)までは両者は同等の水位となっている.H8 年以降は,地下水位の上昇が見られるが,逆に河川水位は低下傾向となっている.

これらのことから,河川水と地下水は一体となっているが,直上流の堰の影響で河川水位のほうが 低くなっているのではないかと考えられる.



図 8-33 河川水位と地下水位の関係

#### 2) 過去の地下水解析

番匠川流域では,過去表 8-10 のように地下水検討委員会が設置され,その中で,地下水塩水化シ ミュレーションが行われている.シミュレーションモデルは,平成3年度から作成され,最終の平成 9年度には,表 8-11,図 8-34のようなモデルとなっている.

概略のシミュレーション結果は次のようである.

- ・塩水化には特に下流側の上岡揚水井からの揚水の影響が大きい
- ・塩水化防止には堅田川での涵養の役割が大きい
- ・塩水化を進行させないためには揚水量は現況の約6割程度にする必要がある

時期	地下水検討委員会	目的	内容
平成元年度~5年度	第1回~第5回	総合水管理計画の策定	河川水の伏流機構の調査・解明
			河川表流水と地下水の適正な統合管
			理
平成7年度~9年度	第6回~第13回	番匠川地下水管理計画	地下水塩水化の防止及び水資源の合
		の策定	理的な利用方法の検討

表 8-10 番匠川における過去の調査経緯

## 表 8-11 塩水化モデルの概要

項目		内容				
解析手法		平面 2 次元地下密度流解析				
解析対象		被圧地下水帯水層				
解析範囲		番匠橋~河口部				
メッシュ間隔		20m				
境界条件	上流端	番匠橋月平均水位				
	下流端	灘平均水位(TP.+0.6m)				
	左・右岸	堅田川合流点は固定水位(TP.+0.7m)				
		その他は不透水境界				
パラメータ 透水係数		$5.0 \times 10^{-1} \text{ cm/s}$				
比貯留量		10 <sup>-4</sup> 1/m				
	空隙率	0.3				



図 8-34 塩水化解析モデル(平成9年度)

3) 現地踏查

流域の水循環系把握のため,平成17年10月4日に現地踏査を行った.当日は,若干の降雨があったこともあり,本川上流を除いて伏没の様子はわからなかった.現地踏査からは,次のように考察される.

<本川中流(番匠橋付近)>

河道が周辺地盤よりやや高い天井川のように感じられ,右岸側の水田は旧河道と思われた.堤防す ぐ横には旧弥生町の簡易水道施設が存在した.これらのことから,周辺の揚水等による地下水位変化 状況に応じて河川水位も変化するものと考えられた.

<本川上流>

当日の降雨にもかかわらず,河道内に水流が見られなかった.本川上流域は,石灰岩が多く,河道内にも巨石が見られたことから,透水性の良い石灰質の岩盤内を水が流れているものと考えられた.



図 8-35 現地踏査概要

# ア)長瀬橋









ウ)番匠橋







(番匠橋やや上流)



(番匠橋上流右岸側 旧弥生町簡易水道)

エ)本川上流



オ) 蕨野橋





カ)床木ダム





キ) 堅田橋





# ク)黒沢ダム



ケ) 間庭橋



8.4. モデル作成

1) 流域分割

地下水解析範囲外は,地表流-表層土壌モデルによって,流出量を計算する.流出量の計算にあたっては,流域を一様とみなせる範囲で分割する.分割した流域を図 8-36 に示す.分割流域は,さらに河川沿いの流出寄与域と山林の涵養域に分けるものとする.







図 8-37 地下水解析範囲外の流域分割

## 2) 地下水メッシュ分割

地下水解析範囲内のメッシュ分割は,河川中心線,河川堤防,旧河道,河川横断位置,地下水流動 方向を総合的に判断して作成した.



図 8-38 メッシュ分割図

## 3) 河川計算断面

河川の計算断面は,前述の地下水メッシュにおける河川ノード点である.



図 8-39 河川計算断面

4) 地表面-表層土壌

(2)蒸発散量

蒸発散量は,日平均気温から,次式のハーモン式により可能蒸発散量を設定することにより,モデ ル内部で計算される.

$$E_{p} = 0.14 D_{0}^{2} P_{t}$$

ここに,

E<sub>n</sub>:日平均蒸発散能[mm/日]

D<sub>0</sub>:可照時間[12hr/日]

P<sub>t</sub>:日平均気温に対する飽和絶対湿度[gm/m<sup>3</sup>]



(3) 土地利用データ

土地利用データは,水田,裸地,固い裸地,不浸透域の4種類に分類して,モデルに与える.各分割流域のそれぞれの割合は,図 8-41のようである.



図 8-41 分割流域ごとの土地利用割合

5) 帯水層構造

帯水層は,上流は1層だが,本川約9.5km 付近から下流で,難透水層を挟んだ2層構造となっている.今回の計算では,不圧帯水層1層を対象とするため,帯水層構造を次のようにモデル化する.

・2層となる箇所においては2層目(深層)へは流れない

・2層目に流れる地下水は,下流の井戸揚水量とつりあうと仮定し,2層となる箇所に揚水量として 与える.

モデル化の模式図を図 8-42 に示す.このようにモデル化した場合,2層となる箇所の不圧帯水層の厚さは10mとした.また,1層部分については,井崎川合流部において,厚さを20mと30mに区分した.各メッシュに与えた層厚を図 8-43 に示す.図には,透水係数設定に必要と思われる旧河道に対応するメッシュについてもあわせて示した.



図 8-43 帯水層の設定

#### 6) 揚水量

佐伯市の揚水量は, S61~H8, H13~H16 は月別のデータがあるため, これをそのまま用いる.H9~ H12 については, H8 の値を用いる.

工業用の揚水としては,興人の揚水がある.ただし,揚水量のデータはなく,既往の報告書(H9 塩 水化シミュレーション)では,最大で 9,600m<sup>3</sup>/日の揚水をしていたとして,この値を与えている.ま た,工業統計によるとH13~H15の佐伯市の工業用の井戸揚水量は,平均で約8,400m<sup>3</sup>/日となっている. これらより,工業用の揚水量として8,400m<sup>3</sup>/日を設定する.

両者を合計した月別の揚水量を図 8-44 に示す.



#### 図 8-44 月別揚水量

7) 河道断面の設定

本川および井崎川は,一番近い 200m ピッチの横断測量断面形状を用いることとし,最深河床高を 別に設定して,断面形状が平行移動するようにした.その他は矩形断面を仮定し,標高データ,平面 図等から河床高,河川幅を設定した.

8) 取水・還元の設定

取水量は,鬼ヶ瀬堰および常磐堰以外は,近傍で還元するものとして,(1-還元率)×取水量を与えた.鬼ヶ瀬堰および常磐堰については,還元場所において還元率にしたがって還元するとした.

8.5. モデル精度検証

モデルのパラメタは,比較的雨の少ない H8 年の河川流量および地下水位で同定し,渇水年と豊水 年である H14 年および H15 年の河川流量および地下水位で検証を行った.結果を図 8-46~図 8-51 に 示す.

流量は,各地点とも計算値と観測値(低水流観値)は,比較的よくあっていると思われる.しかしな がら,番匠橋の低水部分(特に1~3月)で乖離が見られる.これは,上流の小川橋の観測精度に問題が あると思われる.図 8-45は,欠測がない年のみ抽出し,年間総雨量と年間総流出量(観測流量の合計) を比較したものであるが,小川橋と間庭橋については,総流出量は,総雨量と同じかそれより大きく なっている.つまり,観測流量は過大であると考えられる.このため,小川橋も含めた各地点で河川 流量を合わせようとした場合,番匠橋の流量が過大な計算値となっている.



図 8-45 年間の総雨量と総流出量の比較

地下水位に関しては,降雨による反応がよく再現されている.しかしながら,切畑の夏場の水位上 昇が表されていない.これは,水田からの涵養効果が大きいと思われるため,水田の用水量を見直し ていく必要がある.



図 8-46 計算結果と観測値のハイドロ比較 (H8,黒:観測値,プロット:低水観測値,青:計算値)



図 8-47 計算結果と観測値の地下水位比較(H8,黒:観測値,青:計算値)



図 8-48 計算結果と観測値のハイドロ比較 (H14,黒:観測値,プロット:低水観測値,青:計算値)



図 8-49 計算結果と観測値のハイドロ比較 (H15,黒:観測値,プロット:低水観測値,青:計算値)



図 8-50 計算結果と観測値の地下水位比較(H14,黒:観測値,青:計算値)



図 8-51 計算結果と観測値の地下水位比較(H15,黒:観測値,青:計算値)

#### 8.6. モデルを用いた番匠川流況に関する考察

同時流量観測では,番匠橋下流の樫野橋地点で,0.52m³/s(非灌漑期平均)の伏流水の還元がある結果となっている.そのときの番匠橋の平均流量は1.22 m³/sである.また,番匠橋と樫野橋での渇水流量の比較(間庭橋での比流量を残流域分として考慮している)からは,0.26 m³/sの還元が推定されている.

正常流量検討資料によると過去48年間(昭和29年~平成13年)の番匠橋の1/10渇水流量が0.3m³/s であることから,それに計算流量が近い日(平成8年2月7日)の水収支(伏流・還元量)を示すと, 図8-52のようになる.上流側で伏流(河川 地下水)し,下流で還元(地下水 河川)している様子が 再現されている.これは,河道断面の最深河床高(図8-53)の高低にほぼ一致し,山梨子橋上流では やや河床高が高いため伏流しており,潮止堰上流側では,深掘れしているため還元が発生している. 潮止堰下流は感潮区間であり,河床が低く勾配も緩いことから還元が多く発生している.なお,番匠 橋付近の伏流は,モデルで仮定した地下水揚水によるものであると思われる.計算の還元・伏流量は 0.1m³/s程度であり,上記の同時流観結果および潮止堰での常時約1m³/sの取水よりは小さめとなって いる.これは,解析モデルからは,モデルが日単位の現象を扱っていること,河川・地下水・河川と 地下水のやり取りの計算を別々にいっていることなどが原因と考えられる.



図 8-52 本川の水収支(H8.2.7)



図 8-53 最深河床高



図 8-54 水収支縦断図

また,地下水の流速ベクトル,地下水涵養量の平面図を示すと,図 8-55,図 8-56のようである.



図 8-56 地下水涵養量



図 8-58 流況曲線(蕨野橋)

表 8-12 流況表(左:番匠橋,右:蕨野橋)

	H8	H14	H15		H8	H14	H15
豊水流量	2.83	4.50	9.57	豊水流量	1.66	2.07	4.11
平水流量	0.96	1.82	4.02	平水流量	0.64	0.77	1.42
低水流量	0.51	1.10	2.11	低水流量	0.15	0.30	0.74
渇水流量	0.29	0.72	0.87	渇水流量	0.04	0.03	0.26

また,平成14年について,伏流を考慮しなかった場合の計算を行い,現況との比較を行うと図8-59のようになる.図には,現況との差を伏流量としてプロットしてある.図より,伏流量は河川流量の対数値と同様な変化をしており,伏流量変化は河川流量変化よりも小さいことが分かる.



図 8-59 伏流を考慮しない場合の流況表(番匠橋)

#### 9. 地下水管理モデルの課題

本研究では、「円滑な地下水管理を支援するツール開発」、「地下水流を精度よく再現できるモデル 開発」を研究目的の柱とし、地下水管理モデルを開発した.地下水管理モデルは、データベースモデ ルと水循環解析機能からなり、住民の方々の多種多様な意見・疑問をその場で解決できる合意形成環 境を整えるツールとしての活用も念頭に置いている.本研究を通して浮かび上がった課題を記す.

[課題]実用上必要となる地下水解析精度が定まっていないこと

地下水管理においては,河川管理のように管理者の一元管理のもと利用者間の調整が行われる社会 システムにないことから、解析モデルを利用した厳密な管理が継続されている事例がない.そのため, 実用上必要となる地下水解析精度のレベルが社会通念として定まっているとは言いがたい.これまで の長い地下水研究により地下水解析の理論体系はほぼ確立し,長い計算時間や複雑な入力条件をいと わなければ多様な水文現象に対応できるようになっている.今後は解析モデルを活用した地下水の継 続的管理の事例を積み重ね,使用目的に応じて実用上必要な解析精度のレベルとそれに適応した地下 水解析モデルを選定できるようになることが望まれる.

例えば,今回の検討では地下水解析に GWAP を利用したが,このモデルは地下水空間を単層として 表現するものであり,番匠川のように地下水構造が複層の場合には,詳細な物理現象を再現するため に必要な空間構造を的確に再現できないと考えられる.しかし,今回の研究成果によれば,観測され た地下水位の挙動を概ね再現できており,限りなく複雑なモデルを利用しなくても実用に耐えうる解 析モデルが構築できることを示唆している.また,GWAP は,複雑なモデルよりパラメータが少なく, 計算時間も短いなどパフォーマンスが高い側面もある

以上のようなことから,使用目的,現場条件,解析精度の関係を明らかにしていき,地下水解析の ための知見としていく必要があると考える.

[課題]水文資料が不十分であることに起因して解析精度が上がらないこと

精度の良い地下水解析を行うために,複雑な計算モデルを構築できたとしても,モデル与条件となる地下水位・揚水量・土壌条件等が十分に整備されていないため,推定値を入力条件とすることが多く,境界条件精度が十分に確保できないことによって解析精度の劣化を誘発している.

例えば,今回の検討対象であった両筑平野は,取水システムが確立されていると共に,地下水観測 資料が比較的豊富であったが,地下水解析に不可欠な揚水量のデータは年単位でしか把握できず,日 単位揚水量は同定作業等を交えて調整している.番匠川でも,河川取水量と揚水量は推定の域を出ず, 地下水位,そして,より精緻な解析精度が要求される伏流量の再現計算を困難なものとしている.更 に,揚水量等の境界条件の不確実性は,モデル構造に起因する現象再現の不確実性を曖昧にしてしま い,課題の知見蓄積にも大きな障害となっている.

地下水解析の理論が確立し,それを再現するプログラム整備も概ね完成している今,地下水管理を 行おうとする現場においては,地下水についてはもちろんのこと,表流水を含めた水文資料の充実に 向けた取り組みが望まれる.
本資料の転載・複写の問い合わせは 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 企画部研究評価・推進課 TEL 029-864-2675

国土技術政策総合研究所資料 TECHNICAL NOTE of NILIM No.322 March 2006 編集・発行 ©国土技術政策総合研究所

.....

.....